

# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

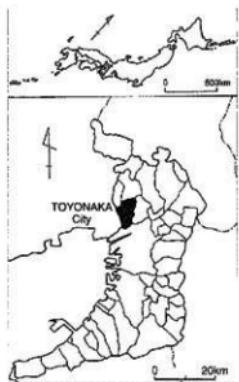
平成21年度(2009年度)

平成22年(2010年)3月

豊中市教育委員会

# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 21 年度（2009 年度）



平成 22 年（2010 年）3 月

豊中市教育委員会



## 序 文

豊中市は大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県と接しています。北方の千里丘陵にかけて広大な森林をひかえたこの地は、神崎川や猪名川から常に豊かな水がもたらされ、古くから人々の生活の場が育まれ、多くの歴史的遺産を受け継いできました。その一方、商都大阪に隣接する関係などから、早くから大阪北郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。近年になって開発の勢いが落ち着いてきたものの、土地利用の形態が変化してきたことを受け小規模開発が急増し、住宅の老朽化に伴う建て替えも依然として多く、埋蔵文化財保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性を踏まえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。今回は、平成21年度に調査を実施した豊島北遺跡、本町遺跡、山ノ上遺跡、螢池西遺跡、内田遺跡、および市内各遺跡における確認調査に加え、平成20年度後期に調査を実施した新免遺跡、市内各遺跡における確認調査の成果もあわせて掲載しました。豊島北遺跡では市内では事例が少ない古代末期の遺構ならびに遺物を確認することができ、内田遺跡では遺跡東半部において新たに中世の集落間連遺構が発見され、新免遺跡では弥生時代、古墳時代の住居跡や柱穴が密集した状態で確認されるなど、各遺跡で新たな知見が得られました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、現代に暮らす私達にとっても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来のために役立つことを願ってやみません。

発掘調査の実施にあたっては、土地所有者をはじめ工事関係者、近隣住民の皆様などに深いご理解と多大なご協力を賜りました。また、文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中の文化財保護行政が推進できましたことをここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げる次第です。

平成22年（2010年）3月31日

豊中市教育委員会  
教育長 山元行博

## 例　　言

1. 本書は、平成21年度国庫補助事業（総額8,700,000円、国庫50%、市費50%）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また、平成20年度下半期国庫補助事業として実施した、新免遺跡第62次調査と確認調査の成果も併せて収録するものである。
2. 平成21年度事業として、平成21年4月2日から平成22年3月31日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。
3. 発掘調査は、本市教育委員会生涯学習推進室地域教育振興課文化財保護係が実施した。
4. 本書の作成にあたり、I～VII章は各調査担当者が執筆した。また、第八章は各調査担当者の見解をもとに、浅田が執筆した。なお、全体の編集を陣内が行なった。
5. 各挿図に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、Nは座標北を、また表記のないものは、略北を示す。
6. 挿図・本文中の土色表記の基準は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1994年版』に基づく。
7. 握図に掲載した出土遺物の縮尺は原則として1：4、または1：3とする。
8. 各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただいた。併せてここに明記し、深謝いたします。

平成20年度（平成20年12月以降）発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
新免遺跡	第62次	玉井町3丁目35-1	55.74m <sup>2</sup>	陣内高志	2008年12月16日 ～2009年1月31日

平成21年度発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
豊島北遺跡	第5次	曾根南町1丁目156-9他	66m <sup>2</sup>	清水 鑑	2009年4月2日 ～2009年4月27日
本町遺跡	第36次	本町4丁目166-4	39m <sup>2</sup>	服部聰志	2009年4月13日 ～2009年4月28日
山ノ上遺跡	第19次	宝山町42-1の一部	40m <sup>2</sup>	橋田正徳	2009年5月18日 ～2009年5月29日
螢池西遺跡	第17次	螢池西町1丁目269	220m <sup>2</sup>	橋田正徳	2009年7月6日 ～2009年7月24日
内田遺跡	第9次	桜の町3丁目26-1	28m <sup>2</sup>	陣内高志	2009年9月1日 ～2009年9月10日

# 目 次

第Ⅰ章 位置と環境	(陣内)
1. 地理的環境 .....	1
2. 歴史的環境 .....	1
第Ⅱ章 新免遺跡第62次調査	(陣内)
1. 調査の経緯 .....	5
2. 調査の概要 .....	6
(1) 遺跡の概要と既往の調査 .....	6
(2) 基本層序 .....	6
(3) 検出した遺構と遺物 .....	6
3. まとめ .....	11
第Ⅲ章 豊島北遺跡第5次調査	(清水)
1. 調査の経緯 .....	13
2. 調査の概要 .....	13
(1) 基本層序 .....	13
(2) 検出した遺構 .....	15
(3) 出土遺物 .....	15
3. まとめ .....	20
第Ⅳ章 本町遺跡第36次調査	(服部)
1. 調査の経緯 .....	21
2. 調査の概要 .....	21
(1) 基本層序 .....	21
(2) 検出遺構 .....	22
3. まとめ .....	25
第Ⅴ章 山ノ上遺跡第19次調査	(橋田)
1. 調査の経緯 .....	23
2. 調査の概要 .....	23
(1) 基本層序 .....	23
(2) 検出した遺構 .....	24
3. まとめ .....	25
第Ⅵ章 莳池西遺跡第17次調査	(橋田)
1. 調査の経緯 .....	27
2. 調査の概要 .....	29
(1) 基本層序 .....	29
(2) 検出した遺構 .....	29
3. まとめ .....	30
第Ⅶ章 内田遺跡第9次調査	(陣内)
1. 調査の経緯 .....	31
2. 調査の概要 .....	32
(1) 遺跡の概要 .....	32
(2) 基本層序 .....	32
(3) 検出した遺構 .....	32
(4) 出土遺物 .....	34
3. まとめ .....	35
第Ⅷ章 確認調査の成果	(浅田)
確認調査の概要 .....	37

# 挿図・表目次

## (第Ⅰ章 位置と環境)

第1図 市内遺跡分布図	2
第2図 調査地点と周辺の地形	4

## (第Ⅱ章 新免遺跡第62次調査)

第3図 調査範囲図 (1:200)	5
第4図 調査地位置図 (1:5,000)	5
第5図 調査区平面・断面図 (1:60)	7
第6図 ピット1土器出土状況図 (1:10)	8
第7図 ピット2土器出土状況図 (1:10)	8
第8図 出土遺物1 (1:4)	9
第9図 出土遺物2 (1:4 は 2:3)	10

## (第Ⅲ章 豊島北遺跡第5次調査)

第10図 調査範囲図 (1:200)	13
第11図 調査地位置図 (1:5,000)	13
第12図 調査区平面・断面図 (1:50)	14
第13図 出土遺物1 (1:3)	15
第14図 出土遺物2 (※1~9は1:3、10は1:2、11は1:4)	16
第15図 出土遺物3 (※1~19は1:3、20~23は1:4)	17

## (第Ⅳ章 本町遺跡第36次)

第16図 調査範囲図 (1:300)	21
第17図 調査地位置図 (1:5,000)	21
第18図 調査区平面・断面図 (1:70)	22

## (第Ⅴ章 山ノ上遺跡第19次調査)

第19図 調査範囲図 (1:200)	23
第20図 調査地位置図 (1:5,000)	23
第21図 調査区平面・断面図 (1:50)	24
第22図 柱穴列1平面・断面図 (1:40)	25

## (第VI章 蛍池西遺跡第17次調査)

第23図 調査範囲図 (1:500)	27
第24図 調査地位置図 (1:5,000)	27
第25図 調査区平面・断面図 (1:100)	28
第26図 溝1断面図 (1:20)	29

## (第VII章 内田遺跡第9次調査)

第27図 調査範囲図 (1:250)	31
第28図 調査地位置図 (1:5,000)	31
第29図 調査区平面・断面図 (1:40)	33

第30図	港1平面・断面図（1：30）	34
第31図	出土遺物（1：3）	35

(第Ⅳ章 確認調査の成果)

第1表	確認調査一覧表	37
第32図	確認調査地点位置図	39
第33図	レンチ掘削状況	40
第34図	レンチ断面図	40
第35図	レンチ掘削状況	40
第36図	レンチ断面図	40
第37図	レンチ掘削状況	40
第38図	レンチ断面図	40
第39図	レンチ掘削状況	40
第40図	レンチ断面図	40
第41図	レンチ掘削状況	41
第42図	レンチ断面図	41
第43図	レンチ掘削状況	41
第44図	レンチ断面図	41
第45図	レンチ掘削状況	41
第46図	レンチ平面・断面図	41
第47図	レンチ掘削状況	41
第48図	レンチ断面図	41
第49図	レンチ掘削状況	42
第50図	レンチ平面・断面図	42
第51図	レンチ掘削状況	42
第52図	レンチ平面・断面図	42
第53図	レンチ掘削状況	42
第54図	レンチ平面・断面図	42
第55図	レンチ掘削状況	42
第56図	レンチ断面図	42
第57図	レンチ掘削状況	43
第58図	レンチ平面・断面図	43
第59図	レンチ配置図	43
第60図	レンチ断面図	43
第61図	レンチ掘削状況	43
第62図	レンチ断面図	43
第63図	レンチ掘削状況	43
第64図	レンチ断面図	43
第65図	レンチ掘削状況	44
第66図	レンチ断面図	44
第67図	レンチ掘削状況	44
第68図	レンチ平面・断面図	44
第69図	レンチ掘削状況	44
第70図	レンチ断面図	44
第71図	レンチ掘削状況	44
第72図	レンチ断面図	44

第73図	レンチ掘削状況	45
第74図	レンチ断面図	45
第75図	レンチ掘削状況	45
第76図	レンチ断面図	45
第77図	レンチ掘削状況	45
第78図	レンチ断面図	45
第79図	レンチ掘削状況	45
第80図	レンチ断面図	45
第81図	レンチ掘削状況	46
第82図	レンチ断面図	46
第83図	レンチ掘削状況	46
第84図	レンチ断面図	46
第85図	レンチ掘削状況	46
第86図	レンチ断面図	46
第87図	レンチ掘削状況	46
第88図	レンチ平面・断面図	46
第89図	レンチ掘削状況	47
第90図	レンチ断面図	47
第91図	レンチ掘削状況	47
第92図	レンチ断面図	47
第93図	レンチ掘削状況	47
第94図	レンチ断面図	47
第95図	レンチ掘削状況	47
第96図	レンチ断面図	47
第97図	レンチ掘削状況	48
第98図	レンチ平面・断面図	48
第99図	レンチ掘削状況	48
第100図	レンチ断面図	48
第101図	レンチ掘削状況	48
第102図	レンチ断面図	48
第103図	レンチ掘削状況	48
第104図	レンチ平面・断面図	48
第105図	レンチ掘削状況	49
第106図	レンチ断面図	49
第107図	レンチ掘削状況	49
第108図	レンチ断面図	49
第109図	レンチ掘削状況	49
第110図	レンチ断面図	49
第111図	レンチ掘削状況	49
第112図	レンチ断面図	49
第113図	レンチ掘削状況	50
第114図	レンチ断面図	50
第115図	レンチ掘削状況	50
第116図	レンチ平面・断面図	50
第117図	レンチ掘削状況	50

第118図	トレンチ断面図	50
第119図	トレンチ掘削状況	50
第120図	トレンチ断面図	50
第121図	トレンチ掘削状況	51
第122図	トレンチ断面図	51
第123図	トレンチ掘削状況	51
第124図	トレンチ断面図	51
第125図	トレンチ掘削状況	51
第126図	トレンチ断面図	51
第127図	トレンチ掘削状況	51
第128図	トレンチ断面図	51
第129図	トレンチ掘削状況	52
第130図	トレンチ断面図	52
第131図	トレンチ配置図	52
第132図	トレンチ平面・断面図	52
第133図	調査範囲図（1：500）	53
第134図	調査位置図（1：5,000）	53
第135図	1区掘削状況（北から）	53
第136図	麻田藩陣屋（小谷英一氏所蔵）（1：2,000）	54

## 図 版 目 次

### 図版1 新免遺跡第62次調査

- (1) 調査区北半部（南から）
- (2) 調査区南半部（東から）

### 図版2 新免遺跡第62次調査

- (1) 堅穴住居1・2完掘状況（北西から）
- (2) 土坑2断面（北から）

### 図版3 新免遺跡第62次調査

- (1) ピット1土器出土状況（北から）
- (2) ピット2土器出土状況（東から）

### 図版4 豊島北遺跡第5次調査

- (1) 調査区北半部全景（東から）
- (2) 溝1断面（西から）

### 図版5 豊島北遺跡第5次調査

- (1) 井戸1断面（南から）
- (2) 包含層遺物出土状況（南から）

### 図版6 本町遺跡第36次調査

- (1) 調査区東半部全景（西から）
- (2) 調査区西半部全景（西から）

### 図版7 山ノ上遺跡第19次調査

- (1) 調査区全景（北から）
- (2) S P O 2断面

### 図版8 蛭池西遺跡第17次調査

- (1) 調査区全景（北から）
- (2) 溝1（断面1）

### 図版9 内田遺跡第9次調査

- (1) 調査区全景（南から）
- (2) 溝1疊出土状況（北から）

### 図版10 麻田藩陣屋跡確認調査

- (1) 第1面（近世以降）東半部全景（東から）
- (2) 第1面（近世以降）西半部全景（西から）

### 図版11 麻田藩陣屋跡確認調査

- (1) 第2・3面東半部全景（東から）
- (2) 第2・3面西端部全景（西から）

### 図版12 麻田藩陣屋跡確認調査

- (1) 藩主邸内堀 検出状況（東から）
- (2) 土坑1遺物出土状況（第2面 北から）

## 第Ⅰ章 位置と環境

### 1. 地理的環境

豊中市は大阪市の北方に位置し、西は猪名川を介して兵庫県と接しており、旧国名では摂津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治43年の箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）開通を契機に宅地化が進み、現在では市域面積約37km<sup>2</sup>中に39万人もの人口を擁する北摂有数の住宅都市に発展している。このような発展に至った背景としては、名神高速道路や阪神高速道路などの自動車道路、阪急電鉄や北大阪急行などの鉄道網、大阪国際空港などに示される陸空交通の利便性の高さが考えられよう。

一方、地形に目を転じると、豊中市は北から南に向かって標高が徐々に低くなる地形をみせており、鳥熊山（録丘）付近の最高地点（海拔約100m）から最も低い大島町付近（海拔1m以下）にかけておよそ100mの比高差を有する。ここで地形について大きく区分すると、市北部一帯は千里丘陵と刀根山丘陵と呼ばれる2つの丘陵地からなり、統いて中部は主に千里丘陵から派生する中・低位段丘を中心とした豊中台地、南部は猪名川水系、天竺川、高川の沖積作用によって形成された平野部、という見方ができる。

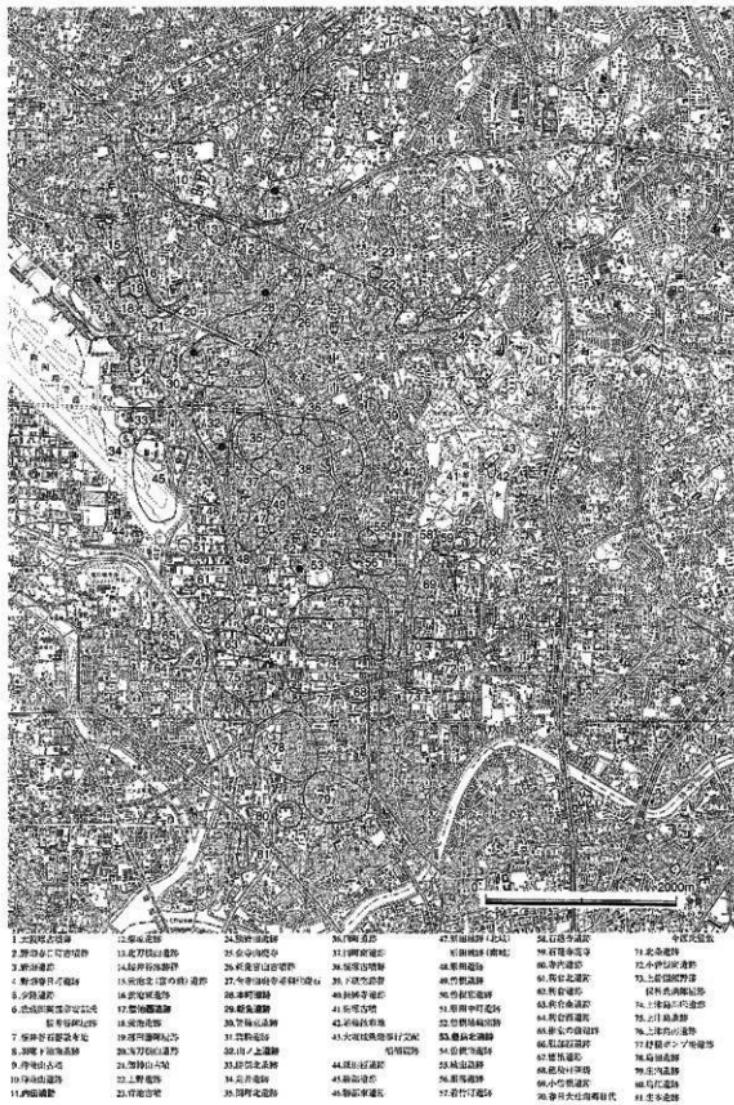
次章以下で報告する6遺跡のうち、北部では千里川右岸の低位段丘上に内田遺跡、刀根山丘陵末端部上の螢池西遺跡、中部では豊中台地上に新免遺跡と本町遺跡が、豊中台地から派生する小丘陵地上には山ノ上遺跡が立地する。南部は、曾根の段丘崖直下の沖積地に轟島北遺跡が該当する。

### 2. 歴史的環境

今回報告する遺跡は基本的に集落遺跡である。よって以下では、各遺跡における集落の動態を中心に述べていく。ただし、本町遺跡・新免遺跡・山ノ上遺跡の3遺跡は、立地や遺跡の性格などが比較的類似するため、ここでは3遺跡を一括して取り扱う。

**内田遺跡** 千里川上流域の河岸段丘上では縄文時代から居住の痕跡が見受けられ、野畠遺跡（中～後期）、野畠春日町遺跡（中～晚期）、内田遺跡（後期）はその代表的な遺跡である。内田遺跡は弥生時代以降、しばらく集落は確認されていないが、6世紀後半（古墳時代後期後半）に突如集落が出現する。この集落は桜井谷窯跡群における須恵器生産に関与した工人の集落とみられ、7世紀初頭、ちょうど桜井谷窯跡群の衰退に同調するかのように廃絶することが明らかになっている。奈良時代以降の動態は不明であったが、第8次調査地において、中世の居館跡などが発見され、内田遺跡に中世集落が展開する可能性が高くなった。今回の調査は中世内田遺跡としては2例目の調査であり、当該時期の様相が徐々に明らかになってきた。

## 2. 歴史的環境



第1図 市内遺跡分布図

**螢池西遺跡** 螢池西遺跡は大阪国際空港の東側一帯に広がる遺跡であり、その時代は旧石器時代、弥生後期～中世に及ぶことが知られている。既往の調査によると、第1次、第2次調査やその後実施された阪神高速空港線関連の調査では、粘土探査坑や自然河川跡が検出されている。これら自然河川内からは弥生時代終末期と古墳時代中期の遺物がまとめて出土しており、付近に当該期の集落が存在したことが考えられる。古墳時代中期の集落については、大形倉庫群が発見された螢池東遺跡との関係が課題となってこよう。遺跡北東部に位置する今回の調査地では、これまでほとんど確認されていない古墳時代後期以降の集落関連遺構を検出している。

**本町遺跡・新免遺跡・山ノ上遺跡** これら3遺跡はいずれも弥生時代に出現する点で共通するが、その後の展開は遺跡ごとにやや異なっている。豊中市域の弥生遺跡は一般に弥生時代中期以降、次第に低地の母村から台地上に子村が派生していく。千里川流域では低地の勝部遺跡を母村として、その後台地上に新免遺跡などの子村が展開するものとみられる。山ノ上遺跡にやや遅れて中期に誕生する新免遺跡は、弥生中期～後期には複数の居住域と墓域を有する北摂有数の拠点集落として発展し、その規模は山ノ上遺跡を凌駕する。その一方で、新免遺跡に東接する本町遺跡は弥生時代中期段階が集落の初現とみられるが、新免遺跡からの分村程度とみられ、その格差は歎然としている。本町遺跡が本格的な盛期を迎えるのは古墳時代後期からであり、同じ頃の新免遺跡、柴原遺跡も同様に盛期を迎える。当該期におけるこれらの集落遺跡は、桜井谷窯跡群で生産された須恵器の選別作業に携わった可能性が考えられる。今回の本町遺跡の調査では千里川の河岸段丘を間に控えた遺跡縁辺部の様相をまた一つ明らかにすことができ、新免遺跡では弥生集落の中核部に相当し、多数の柱穴をはじめ濃密な遺構の分布を確認している。山ノ上遺跡では遺跡南半部における古代集落の一端を明らかにした。

**豊島北遺跡** 曾根の段丘崖裾野に広がる豊島北遺跡は、弥生時代後期～終末期に本格的な集落が出現するが、古墳時代には一旦衰退し、奈良～平安時代に再び集落が営まれるようである。鎌倉時代以降は耕地化が開始したようであるが、なかでも第3次調査で確認された東西方向の畦畔・溝は、摂津国豊島郡の北条と南条の里境に、南北方向の溝は坪境の区画溝とみられ、豊中市域における条里制の施行時期が当該時期には成立していたことが判明した。今後はその成立時期がどこまで遡るかが一つの課題になってこよう。今回の調査地は調査事例が希少な遺跡南西部に位置し、これまで確認されることがなかった平安時代の集落関連遺構を検出し、遺跡の動態を把握する上で貴重な成果をもたらした。

2. 歴史的環境



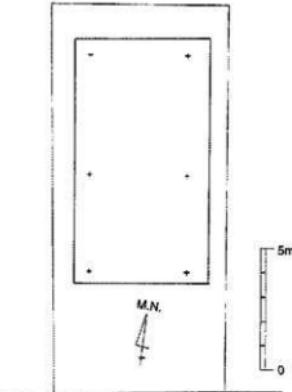
第2図 調査地点と周辺の地形

## 第Ⅱ章 新免遺跡第62次調査

### 1. 調査の経緯

当調査区は、豊中市玉井町3丁目35-1に所在する。平成19年9月10日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成19年9月12日、宅地造成工事時に確認調査を実施したところ、地表下66cmで弥生時代～古墳時代の遺物包含層を、同じく90cmで遺構面をそれぞれ確認した。当初の建築計画では基礎深度が遺物包含層に到達せず填土工事の指示であった。ところが、その後土地所有者が代わり、平成20年12月2日に提出された埋蔵文化財発掘の届出では、表層地盤改良を地表下150cmまで実施することが判明し、遺構面の破壊は避けられず、土地所有者側と協議の結果、本発掘調査を実施することになった。

本発掘調査は平成20年12月16日から平成21年1月31日にかけて実施し、調査面積は建築対象面積である55.74m<sup>2</sup>であった。



第3図 調査範囲図 (1:200)



第4図 調査地位置図 (1:5,000)

## 2. 調査の概要

### (1) 遺跡の概要と既往の調査

新免遺跡は阪急宝塚線豊中駅の西～南西一帯の住宅地に広がる集落遺跡であり、東西約600m、南北約300mの規模を有する。これまでに61件の発掘調査が実施され、縄文時代から近世に至る複合遺跡であることが判明している。遺跡の盛期は弥生時代中期～後期、古墳時代後期とみられ、なかでも弥生集落は現在30基以上の竪穴住居と約20基の方形周溝墓を検出しており、市内有数の拠点集落として位置付けられている。しかしながら調査の大半は個人住宅新築工事を契機とするケースであるため調査面積も狭小であり、調査次数の割には環濠の有無など、拠点集落としての実態について不明瞭な点が多い。

今回の調査地は遺跡西部に位置し、千里川の河岸段丘を間近に控えている。調査地一帯は、既往の発掘調査で弥生～古墳時代の遺構・遺物が濃密に密集するエリアであり、特に弥生時代中期については集落中心部と目されている。よって今回の調査では、弥生時代中期を中心と同後期、古墳時代中～後期の集落関連遺構の検出が予想された。

### (2) 基本層序

今回の調査地における基本層序は4層に大別可能であった。以下、順に記していく。

1層 現代の盛土であり、地表下30～40cmまでが該当する。

2層 にぶい黄褐色（10YR7/3）極細粒砂。宅地化直前段階までの耕作土であり、層厚10～15cmを有する。

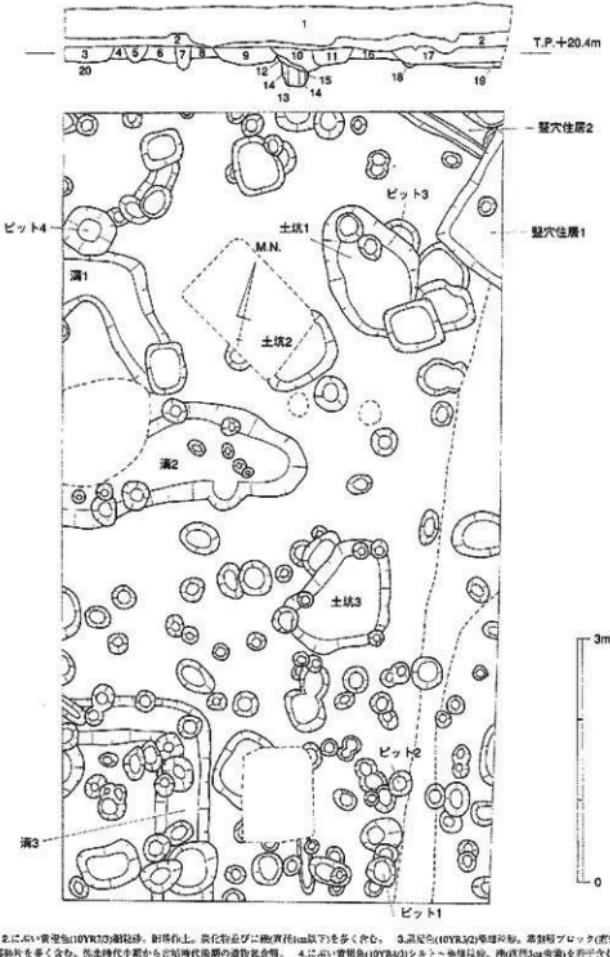
3層 にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂～シルト。層厚約10cmを有する弥生土器、土師器、須恵器等の遺物包含層である。検出遺構の一部は3層中から掘り込まれていることから、3層の一部は遺構埋土でもある。弥生時代中期～古墳時代終末期の遺物を含む。

4層 明黄褐色（10YR6/6）シルト。当調査地の基盤層であり、遺構検出面である。遺構埋土とその直上の3層（遺物包含層）の土質が類似しており両者の識別が困難であったことから、今回は基盤層上面において遺構検出作業を行い、調査を実施している。

### (3) 検出した遺構と遺物

今回の調査では約56m<sup>2</sup>という限られた面積にも関わらず、第5図に示す通り、竪穴住居2基、溝3条、土坑3基、ピット150基以上の集落関連遺構を多数検出している。遺構は弥生時代中期に属するものが大半であった。なかでも150基以上検出されたピットはその多くが柱穴であり、その数から相当数の建物跡が存在したと考えられる。しかし、遺物は碎片をわずかに含む程度の柱穴が多く、掘削時期が判明する柱穴は少数であった。

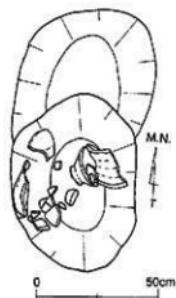
一方、出土遺物は遺物収納箱にして6箱分出土している。出土遺物の内訳は、弥生土器が大



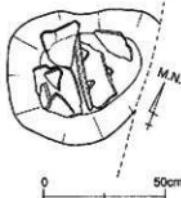
1. 現代の底土。まにい葉落生(10YR3/2)の混在部。則帶地上。黄化物及び黒(直徑1cm以下)を多く含む。土器碎片を多く含む。2. 北時代小町から北時代後期の遺物を含む。4. まにい葉落生(10YR3/2)シルト～粘土層。所持物(10YR3/2)を含む。5. 黄褐色(10YR4/1)後期乾燥シルト。表面堅物、油堅物ブロック(直徑2cm以下)を約5%含む。6. まにい葉落生(10YR4/1)シルト。油直(直徑3cm未満)を有する含む。7. 黃褐色(10YR4/2)後期乾燥シルト～細砂粘土。4. 10. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 黄褐色(10YR4/3)シルト～細砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。8. 11. 黄褐色(10YR4/4)シルト～粗砂粘土。4. 10. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 黄褐色(10YR4/5)シルト～粗砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約25%含む。9. 黄褐色(10YR4/6)シルト～粗砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約20%含む。10. 黄褐色(10YR4/7)シルト～粗砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。11. 黄褐色(10YR4/8)シルト～粗砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。12. 16. 黄褐色(10YR4/9)シルト～粗砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。13. 黄褐色(10YR4/10)シルト。油堅物ブロック(直徑2cm未満)を約15%含む。14. 黄褐色(10YR4/11)シルト～粗砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。15. 黄褐色(10YR4/12)シルト～粗砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。16. 17. 黄褐色(10YR4/13)シルト～粗砂粘土。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。18. 黄褐色(10YR4/14)シルト。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。19. 黄褐色(10YR4/15)シルト。油堅物ブロック(直徑3cm未満)を約15%含む。20. 黄褐色(10YR4/16)シルト。油堅物(10YR4/17)を含む。

第5図 調査区平面・断面図 (1:60)

## 2. 調査の概要



第6図 ピット1土器  
出土状況図 (1:10)



第7図 ピット2土器  
出土状況図 (1:10)

半を占め、他に土師器、須恵器が少量ずつ、さらに弥生時代の石器が磨片も含めて10点程度出土している。なお、出土土器は、碎片かつ表面が摩滅したものが中心であったため、固化に耐えうる遺物は第8・9図に掲げている18点であった。以上の経過を踏まえつつ、以下では主要な遺構・遺物についての報告を行う。

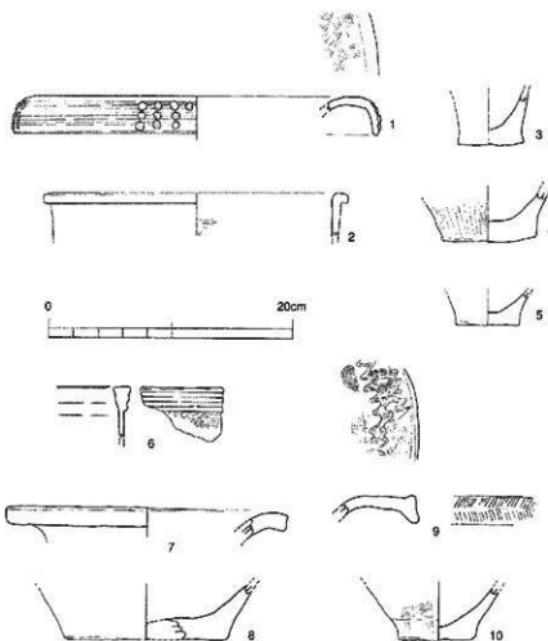
**竪穴住居1** 調査区北東隅で検出した。コーナー部分の形状をみると、当該住居は平面方形の形状が考えられ、その場合一辺2m以上の規模が考えられる。住居内は検出面から基底面まで15cmの深度を有する。基底面上でピットを検出したが深度が浅く、遺物に恵まれず竪穴住居との関連は不明である。埋土は黒褐色シルト～極細粒砂であり、基盤層の細かいブロックを少量含む。埋土中に須恵器片を含むことから古墳時代後期以降の廃絶が考えられる。壁溝は確認できなかった。

**竪穴住居2** 調査区北東隅で竪穴住居1と重複して検出した。検出範囲はわずかであり土坑の可能性もあったが、造構の検出ラインが直線的であることや、その直下の基底面上において細長い溝を検出したことから、平面は方形または隅丸方形で、壁溝を有する竪穴住居と判断した。住居の深度は5cm程度しか残存しない。竪穴住居2は竪穴住居1に切られていることと、住居埋土に須恵器を含まないことから古墳時代中期以前の住居と考えられる。

**溝1** 調査区北西部で検出した南東方向に屈曲する溝であるが、調査区西壁の制約により全体の形状は不明である。検出幅は50～60cm、深度は検出面から約20cmであるが実際は3層（遺物包含層）上面から掘り込まれていることが西壁面断面から確認でき、本来は30cm程度の深度を有する。埋土は黒褐色極細粒砂の單一層であり、少量ながら基盤層ブロックを含む。埋土下半部からも須恵器碎片を含むことから、溝1は古墳時代後期またはそれ以降に埋没したことが考えられる。

**溝2** 調査区中央付近で検出した。溝1同様に西側が調査区外へ伸びており、溝全体の平面形は不明であるが、基本的には東西方向に走る溝であろう。検出幅は最大で1.4m、深度は約25cmをはかり、基底面は幅30～40cmの平坦面を形成する。埋土は褐灰色極細粒砂に基盤層ブロックを少量含んだものであった。出土遺物は弥生時代中期のものに限られるであろう。第8図1・2はそれぞれ広口壺・壺の口縁部、3～5は壺等の底部であろう。

**溝3** 幅55～65cmで東西方向から南へ直角に曲る溝である。10cm程度の深度は、調査区内の溝状遺構のなかで最も深度が浅い。基底面の高低差は認められずほぼ平坦とみてよい。出土遺物はごく少量かつ碎片であったため溝3の詳細な時期比定は困難だが、埋土に須恵器を含まない



第8図 出土遺物1 (1:4)

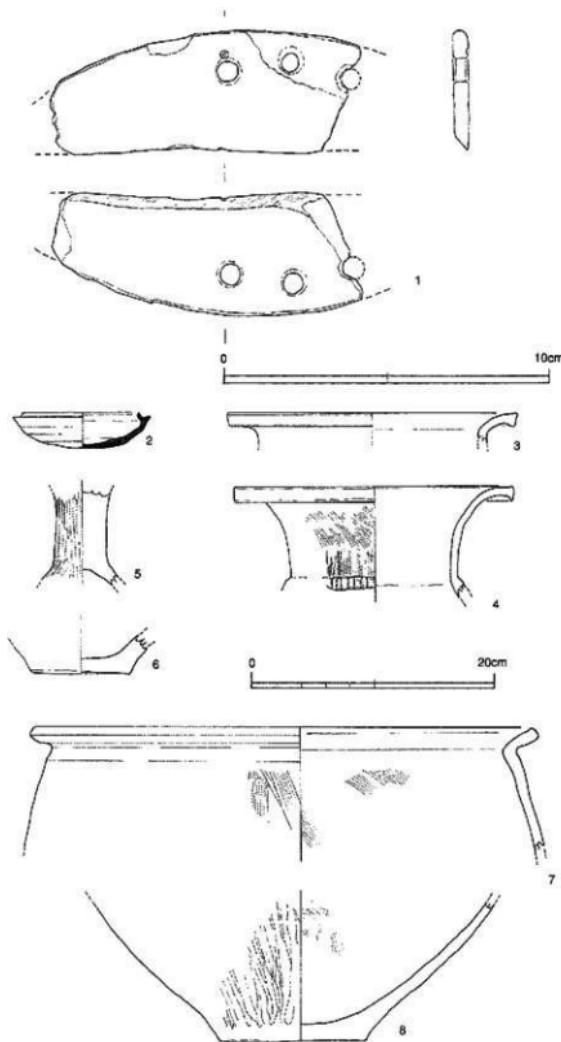
点を考慮すれば、弥生時代中期～古墳時代中期の一時期と考えられ、仮に弥生時代中期であればその形状から方形周溝墓の可能性もある。

**土坑1** 平面はいびつな楕円形を呈し、長軸幅1.4m以上、短軸幅で1.1m、深度30cmをはかる。基底面付近から壺形土器口縁部・底部片（第8図7・8）等が出土している。土坑1は弥生時代中期の所産とみられる。

**土坑2** 一部攪乱を受けているが、残存部分から隅丸長方形の平面形が考えられる。埋土は褐色極細粒砂を主体とし、基盤層ブロックと砾の混入具合から3層に区分できる。深度は最深部で約40cmをはかる。埋土上層中ののみ須恵器片をわずかに含むことから、最終的な埋没が古墳時代後期であり、機能した時期は出土遺物より弥生時代中期と考えられる。

**土坑3** 調査区中央付近で検出した平面不整形の土坑である。南北の最大幅はそれぞれ1.5m、深度は15cm程度である。埋土は黒褐色極細粒砂の單一層である。出土遺物は大半が弥生土器（第8図6など）であったが、少量ながら須恵器片を含むため、当該土坑の時期は古墳時代後期頃と考えられる。

2. 調査の概要



第9図 出土遺物2 (1:4※1は2:3)

ピット1（第6図） 調査区南端部で検出した。ピット中からは多数の弥生土器が出土している。第9図4は広口壺の口縁部、5は高杯の脚部、6は壺の底部である。

ピット2（第7図） ピット1から約1m北側で検出したピットであり、ここからも弥生土器が多数出土した。第9図7・8はそれぞれ大形壺の口縁部と底部であり、胎土や焼成の特徴から同一個体であろう。弥生時代中期の特徴を有する。

ピット3 土坑1と重複するピットであり、直径50cm、深度は35cmをはかる。埋土中より弥生土器の碎片とともに磨製の石包丁（第9図1）の破片が出土した。

ピット4 調査区北西隅付近で検出した直径50cm程度、深度20cmをはかるピットである。埋土中出土の須恵器杯身（第9図2）は古墳時代終末期（TK209型式）の特徴を示し、当該時期の遺構といえるのはピット4が唯一であった。

### 3.まとめ

今回の調査は限られた調査面積にもかかわらず多数の遺構を検出した。検出遺構の多くは弥生時代中期とみられ、他に古墳時代中期～後期、飛鳥時代の遺構も確認した。以下では当調査区における各時期の成果についてまとめておく。

弥生時代中期は調査区内の遺構分布をみると、ピットまたは柱穴の分布は南側ほど濃密であることに気づく。ここで過去の調査成果を参考にすると、第28次・31次調査区のように当調査区以南でより濃密な分布を示すことがうかがえる。よって当該時期の調査区一帯は新免弥生集落内において特に濃密な建物の分布が予想され、居住域としてみた場合、集落の中心部であった可能性が高いことが改めて確認された。

弥生時代後期以降で明確な遺構が確認できたのは古墳時代中期～後期である。当該期の調査区では竪穴住居、土坑、ピットまたは柱穴といった遺構がみられるが、弥生時代中期の遺構密度や出土遺物の量を比較すればその格差は歴然としている。付近の調査成果をみると第28次・31次調査区においても当該期の建物跡が確認されており、これらは一連の遺構群を形成しているとみられる。古墳時代終末期になるとピット1基のみとなり、当調査区一帯において明らかに集落が衰退していることがうかがえる。

今回の調査区は新免弥生集落の中心部の一角に該当することが考えられる。周辺では建物跡とともに方形周溝墓も確認されており、居住域と墓域が一体となって集落を形成していた可能性が高い。しかし、実際は両者の関連遺構は複雑に重複して検出されることが多く、居住域と墓域との時空的な関係は不明瞭なままである。よって今後付近における発掘調査は、これらの課題と既往の調査成果を踏まえつつ慎重に行う必要がある。

### 3.まとめ

#### 【参考・引用文献】(順不同)

- ・豊中市教育委員会「新免遺跡」「豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1982年度」豊中市文化財調査報告第10集 1983年
- ・豊中市教育委員会「新免遺跡第13次調査」「豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1985年度」豊中市文化財調査報告第15集 1986年
- ・豊中市教育委員会「新免遺跡第28次調査」「豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1989年度」豊中市文化財調査報告第28集 1990年
- ・豊中市教育委員会「新免遺跡第31次調査」「豊中市埋蔵文化財年報 Vol. 1 1989,1990年度」1993年
- ・阪急宝塚線豊中市内連続立体交差遺跡調査団・豊中市教育委員会『新免遺跡－第11次発掘調査報告書－』豊中市文化財調査報告第22集 1987年
- ・螢池北遺跡調査団・豊中市教育委員会『螢池北遺跡（宮の前遺跡）第12次発掘調査報告－弥生時代中期方形周溝墓群の調査－』豊中市文化財調査報告第36集 1995年

## 第三章 豊島北遺跡第5次調査

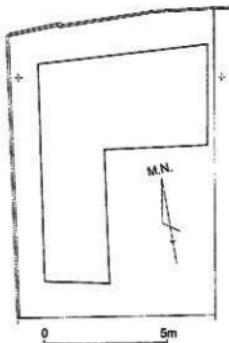
### 1. 調査の経緯

当調査区は、曾根南町1丁目156-9、156-10に所在する。平成21年2月20日付けで提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成21年2月26日に確認調査を行なったところ、地表下約1.4mで古墳～平安時代の遺物や遺構を検出した。個人住宅建設に伴う基礎工事の計画では地表下約5m付近までの柱状地盤改良が予定されており、遺構の損壊を免れないことが判明したため、協議の結果、本発掘調査を実施することとなった。調査は平成21年4月2日～4月27日にかけて実施し、調査面積は建築対象面積から66.0m<sup>2</sup>とした。

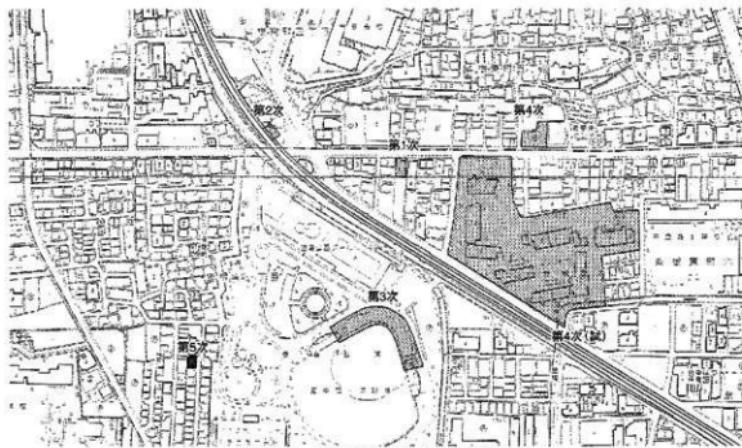
### 2. 調査の概要

#### (1) 基本層序

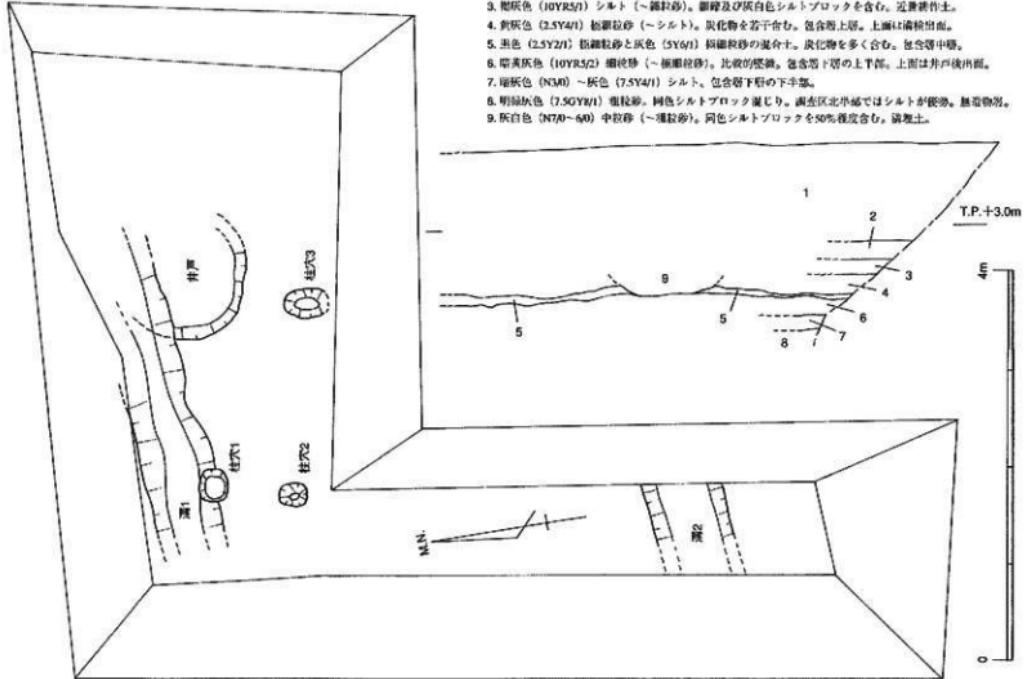
調査区内は地表下約1.1mまでが現代の盛土で整地されている。盛土直下には近～現代の耕作土、そして中～近世の耕作土が続き、地表下約1.4～1.5mで黒褐色系のシルト層に到達する。この黒



第10図 調査範囲図（1：200）



2. 調査の概要



第12図 調査区平面・断面図 (1 : 50)

褐色系のシルト層は後述するように平安時代の遺物包含層であり、遺構面をも形成する。地表下約1.8mで灰色系粗粒砂の分厚い堆積となり、約2mで明緑灰色系の堅密なシルト層となる。この粗粒砂及びシルト層は無遺物であり、豊島北遺跡の東側では弥生時代の基盤層となっているが、当調査では該期の遺構や包含層は確認できなかった。

### (2) 検出した遺構

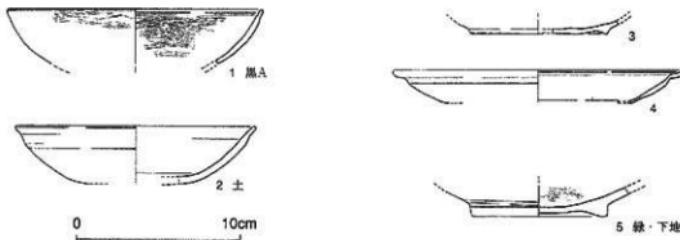
当該調査で検出した遺構は、柱穴3基、溝2条、井戸1基のほか、落ち込み状の遺物包含層である。ただし、地下水位が高く、常に湧水がある状態での調査であったため、実際には検出された数量を超える遺構が存在した可能性があることを断っておく。

柱穴3基は小規模な柱穴である。黒褐色系の遺物包含層上面から検出されているため、古代以降の所産であることが推定されるが、限られた調査範囲の中では建物の構成や規模を知ることができなかつた。溝2条も黒褐色系の遺物包含層上面から検出されており、灰色系の砂質土を埋土とし幅約0.9m、遺存した深さ約0.2mをはかる。6m程度の間隔を開けて同じ規模で東西方向に掘られていることから、耕作地を区画するものと考えられる。古代末頃に掘削された条里地割に伴う溝である可能性がある。井戸は重複關係から、この溝より以前に掘られたものとわかる。約4分の1程度しか遺存しておらず、掘形の復元直径は約1.6m、遺存した深さ約0.5mをはかる。検出時には遺存していないが、その規模等から同時期の井戸遺構と同様、二段重ね程度の曲物を井筒としていた可能性がある。これらの遺構の基盤層をなす黒褐色系の包含層は南に向かってゆるやかに傾斜し落ち込み状に層厚を増す。大きく見ると上・中・下層に分離され、特に中層では部分的に土器が集中して廃棄された状況が看取される。

### (3) 出土遺物

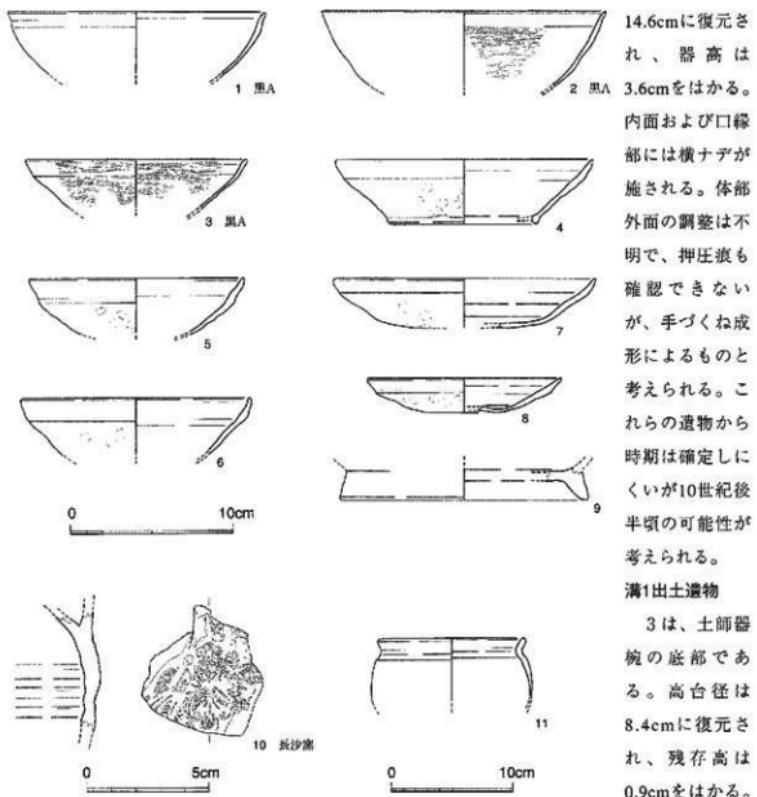
#### 各遺構出土遺物（第13図）

井戸出土遺物 1は、黒色土器A類碗である。口径は15.4cmに復元され、残存高は3.4cmをはかる。内外面には横方向へラミガキを施すが、特に外面のミガキは粗雑で、内面も隙間が目立つ。口縁端部の内側には、幅2mm程度の凹線状の沈線が施されている。2は、土節器壊である。口径は



第13図 出土遺物1 (1:3)

## 2. 調査の概要

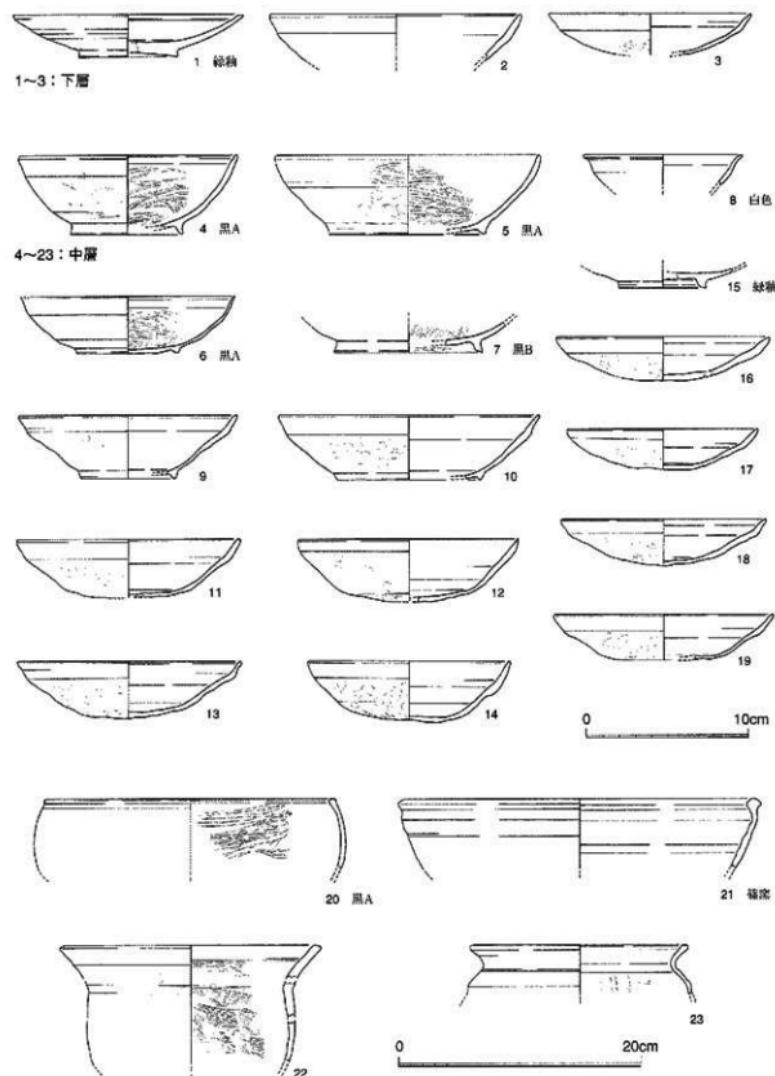


第14図 出土遺物2 (※1~9は1:3、10は1:2、11は1:4)

貼付け、ナデにより整形している。底部内外面の調整は不明であるが、手づくね成形である。4は、「て」の字状口縁の土師器皿である。器壁は2mm前後と薄い。口径は17.9cmに復元され、残存高は2.0cmをはかる。10世紀末～11世紀初めの所産と言える。

柱穴1出土遺物 5は、縁袖下地となる無釉陶器碗である。高台径は6.4cmに復元され、残存高は1.9cmをはかる。高台内部をケズり出して高台を成形している。底部内面にはヘラミガキが施されるが、外側は回転ヘラケズリ痕が残る。京都産のもので、10世紀前半の所産である。下層からの混入品となる可能性が考えられる。

包含層下層（第15図） 1は、京都産の緑釉陶器碗である。口径14.0cm、器高2.6cmをはかる。底部にはケズり出しによる円盤状の高台がつく。内面は緻密なヘラミガキ、外側には回転ヘラケ



第15図 出土遺物3（※1~19は1：3、20~23は1：4）

## 2. 調査の概要

ズリが、また口縁部内面に櫛線状の沈線が施されている。全面に施釉され、見込みには重ね焼きの痕跡が認められる。9世紀後半の所産である。2は、在地産の土師器壺である。口径は15.4cmに復元され、残存高は2.9cmをはかる。器高は明らかに3cmを超えることから、壺と判断した。内面および口縁部外面は横ナデを施す。体部外面の調整は明確ではないが、手づくね成形による。3は、在地産の土師器皿である。口径は12.4cmに復元され、残存高は2.5cmをはかる。内面および口縁部外面には横ナデを、体部外面には右上がり方向の押圧痕が見られる。

包含層中層（第15図） 4～6は、黒色土器A類碗である。4の口径は13.4cm、高台径は6.8cmに復元され、器高は4.9cmをはかる。外面はヘラケズリの後に不定方向のヘラミガキを粗雑に施す。内面には乱雑な不定方向のヘラミガキを、見込みには一定方向のヘラミガキを比較的密に施す。底部には、比較的しっかりした高台が貼付けられている。口縁部内面はナデにより、やや凹線状に凹む。5の口径は16.2cm、高台径は9.4cmに復元され、器高は4.9cmをはかる。体部外面は、押圧の後に粗雑なヘラミガキが施される。内面には、幅2～3mmのヘラミガキが乱雑に施されている。口縁端部の外側は面取りされ、上方に斜く立ち上がる。底部には、断面三角形状の高台が貼付けられている。6の口径は13.0cm、高台径は6.2cmに復元され、器高は3.5cmをはかる。外面の調整は不明である。内面には横方向のヘラミガキを施すが、口縁部付近は粗雑である。断面台形状を呈する高台が貼付けられている。なお、6の器盤は2mm前後と他に比べて薄く、また口縁端部が外反する点で、他と異なる。7は、黒色土器B類碗の底部で、高台径は9.0cmに復元され、残存高は1.7cmをはかる。見込みには一定方向のヘラミガキが密に施され、また底部外面のうち、高台内にも一定方向のヘラミガキが密に施される。やや高脚状を呈する高台の疊付は段状に凹んでいる。10世紀後半の所産となる。8は、京都産白色土器の小碗で、胎土は明灰白色を呈し、比較的緻密である。口径は9.8cmに復元され、残存高は1.9cmをはかる。口縁部には強いナデが施され、端部は外反する。なお、京都産白色土器碗は、これ以外にもう1点出土しているが、口径の復元が困難であったことから図化しなかった。9・10は、在地産の土師器碗である。9の口径は13.4cm、高台径は7.6cmをはかる。体部外面には押圧を、口縁部から内面には横ナデを施す。10の口径は16.0cmに復元できるが、ほかの遺物と比べて非常に大きく、復元値には疑問の余地を残す。器高は4.0cmをはかる。体部外面には右上がり方向の押圧を、口縁部から内面には横ナデを施す。底部に、断面三角形状の高台が貼付けられる。11～14は、在地産の土師器壺である。11の口径は13.6cmに復元され、器高は3.5cmをはかる。体部内面から口縁部外面にかけては横ナデを、外面のうち体部・底部には押圧が施される。押圧に方向性はあまり認められない。12の口径は13.4cmに復元され、器高は3.9cmをはかる。11と同じく、体部内面から口縁部外面にかけては横ナデを、外面のうち体部・底部には押圧が施される。13の口径は13.8cm、器高は3.5cmをはかる。体部外面の押圧が右上がり方向となる以外の特徴は、11と同じである。14の口径は12.4cmを、器高は3.8cmをはかる。口縁部から体部内面には横ナデを施し、体部外面には右上がりの押圧を施す。底部外面には、左方向へ加圧するような押圧痕が認められる。底部内面の調整は不明である。

15は、京都産縁釉陶器の皿である。高台径は5.4cmに復元され、残存高は1.0cmをはかる。外面のうち、高台から底部にかけて露胎する。内面には回転ナデが施され、ミガキはみられない。10世紀前半の所産となる。16~19は、在地產土師器の皿である。16の口径は13.0cmに復元され、器高は2.7cmをはかる。内面は摩耗しており、調整は不明であるが、17とはほぼ同じと考えられる。17の口径は12.0cm、器高は2.5cmをはかる。内面から口縁部外面にかけて横ナデを、体部外面には左上がりの押圧が施される。18の口径は12.8cmに復元され、器高は2.9cmをはかる。体部外面の押圧に顕著な方向性は認められないが、それ以外の調整は17と同じである。19の口径は13.6cm、器高は2.8cmをはかる。体部外面には、右上がりの押圧が施される。なお、19を除く皿の底部は丸みを帯びるが、碗・壺の多くは平底状になるものが多い傾向が認められる。20は黒色土器A類の鉢である。口径は23.8cmに復元され、残存高は5.8cmをはかる。体部は内反し、口縁端部の上端は平坦に仕上げられる。体部外面は風化しているため、調整は不明である。内面は横方向のハケの後に幅3mm前後のヘラミガキを粗雑に施す。21は窯窓産の須恵器鉢である。口径は30.0cmに復元され、残存高は5.8cmをはかる。玉縁状の口縁部から、鉢Cに比定でき、10世紀中頃の所産となる。22・23は土師器壺である。22の口径は21.4cmに復元され、残存高は9.7cmをはかる。口縁部には横方向のナデを、体部外面には押圧が、体部内面には横方向のハケが施される。23の口径は17.9cmに復元され、残存高は4.2cmをはかる。口縁部には横方向のナデを、頸部外面はケズリの後にナデを施したような痕跡が認められる。体部外面には押圧が、体部内面には横方向の板ナデが施される。

包含層上層（第14図） 1~3は、黒色土器A類の碗である。1は口径15.8cmに復元され、残存高3.9cmをはかる。外面のうち、口縁部には横ナデが施されるが、体部の調整は明確ではない。また、内面も風化しており調整はあまり明確ではないが、不定方向のヘラミガキが確認できる。2の口径は17.4cmに復元され、残存高は4.6cmをはかる。体部内面には、幅1mm前後のヘラミガキを密に施すが、口縁部にはヘラミガキがみられない。また、端部上端には段状の沈線が施される。外面の調整は不明である。3の口径は13.6cmに復元され、残存高は3.0cmをはかる。内外面には、規則性に欠ける横方向のヘラミガキが施される。4は、在地產土師器の碗である。口径は15.8cmに復元され、器高は4.0cmをはかる。体部外面に右上がり方向の押圧が、それ以外は横ナデを施す。ただし、見込みの調整は不明である。体部と底部の境界に、断面三角形状の高台を貼付けている。5~7は、在地產土師器の壺である。5の口径は13.0cmに復元され、残存高は3.5cmをはかる。体部内面と口縁部には横ナデを、体部外面には右上がり方向の押圧を施す。6は口径14.0cmに復元され、残存高は3.5cmをはかる。調整上の特徴は、5と同じである。7の口径は16.0cmに復元され、器高は3.1cmをはかる。口径に対して器高が低く、皿の可能性もある。調整上の特徴は5と同じであるが、体部外面の押圧には顕著な方向性は認められない。8は在地產土師器の皿で、口径12.0cmに復元され、残存高は2.1cmをはかる。調整は先の在地產壺と同じく、見込みには一定方向のナデが施される。体部と底部が比較的明確である。9は大型の土師器

### 3.まとめ

盤か鉢になると考えられる器種の高台である。高台径は15.0cmに復元され、残存高は1.8cmをはかる。10は長沙窯製水注の把手部分である。3本の棒を並べた把手と型出しによるナツメヤシの意匠が特徴となっている。内面は回転横ナデを施す。9世紀の所産と言える。11は、土師器壺である。口径は11.8cmに復元され、残存高は5.1cmをはかる。口頸部内外面には横ナデを、体部内面には押圧痕がみられるが調整は不明、体部外側の調整も明確に把握できない。口縁部は、やや直立気味に立ち上がる。

出土遺物のまとめ 以上、包含層から出土した遺物を概観すると、下層出土遺物は京都産縁釉陶器から9世紀後半に、中層出土遺物は篠窯製の鉢が10世紀中頃、京都産縁釉陶器が10世紀前半、黒色土器B類は10世紀中頃～後半とやや時期幅があるものの、概ね10世紀中頃と考えてよいだろう。上層については、あまり特徴的な遺物がないため、時期は特定しにくい。また在地產土師器の形態や法量にも決定的な違いは見出しあくため、ここでは時期を特定しない。なお、包含層上面に掘削された遺構をみると、非戸が10世紀後半と推定できることから、上層出土遺物と中層出土遺物にあまり時期差がなくともよいものと判断する。ところで包含層中から出土した遺物に、長沙窯製水注片と京都産白色土器といった特殊な遺物が含まれていた。長沙窯製水注が普通の集落遺跡から出土したという事例はこれまで聞いたことはなく、また京都産白色土器も平安京以外では京都盆地でもあまり出土しないものとされる。そうした遺物が在地產土師器とともに出土することに、当調査地周辺に展開しただろう建物群の特殊性が想定されよう。

### 3.まとめ

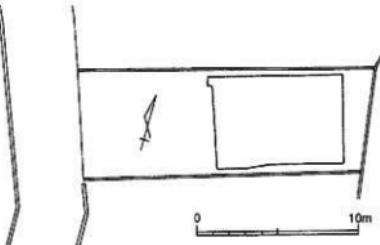
今回の調査では、一部9世紀後半に遡る可能性を持ちながら、10世紀中頃に盛期のある遺物包含層が検出されており、遺物の出土状況から廐棄の単位が認められるため、直近に生活空間が営まれていたことはほぼ間違いないと考えられる。また、10世紀後半に掘られた井戸は建物群に伴う遺構であると考えられるが、11世紀には条里地割に関連する溝によって壊されていて、当調査地周辺ではごく短い間に建物群が廐棄していることがわかる。該期には豊島北遺跡の東側や周辺遺跡でも建物群が散見されるが、それぞれが同様に短い期間しか存続せず、豊島北遺跡の西側でも11世紀代に見られる集落形態の再編、集住化という動きの中で、集落の成立と廐棄を捉えることが今回初めて確認された。

一方、出土遺物の質的な特殊性を勘案すると、当調査地周辺にあった建物群が非常に特殊な性格を持つものと推定せざるを得ない。しかしながら、今回の調査は極めて限定的な範囲でのものであるため、建物群の規模や構成など詳細について知ることができなかつた。今後の周辺での調査成果の蓄積が期待される。

## 第IV章 本町遺跡第36次調査

### 1. 調査の経緯

平成21年3月18日、本町4丁目166ー4の地点において、個人住宅建築に伴う発掘の届出が提出された。これを受けて平成21年3月26日、確認調査を実施した。敷地内2か所の坪振りの結果、現地表下約30cmの段丘層において柱穴と見られる遺構を確認した。予定される建物の基礎が遺構面に損壊を与えることが明らかなため、施主・設計業者との協議にもとづき、平成21年4月13日から4月28日の日程を得て本調査を実施する運びとなった。



第16図 調査範囲図（1：300）

### 2. 調査の概要

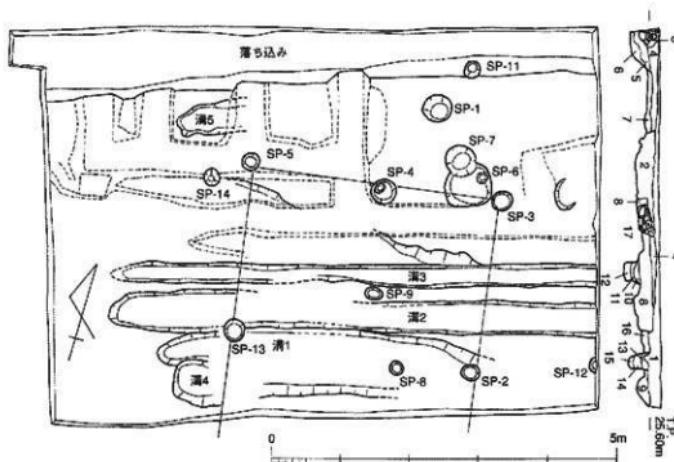
#### (1) 基本層序

当調査区は、本町遺跡のエリア内でも北西方の最も縁辺部に位置する。千里川を直下に見下ろす段丘の端部付近に位置し、遺跡中央付近から当地点まで地形はほぼ水平につづく。



第17図 調査地位置図（1：5,000）

## 2. 調査の概要



1. 表材パラス板。
2. 粘土。
3. 旧墳物の布質包装パラス。
4. 黄褐色17の底粘土でオリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 中粘多多く含む。
5. 黄褐色 (2.5Y 5/6) 粘土～シルトに灰オリーブ (5Y 5/2) 粘粒砂30%含む。
6. 灰オリーブ (5Y 5/2) シルト～細粒砂にオリーブ色 (2.5Y 4/4) 粘土15%含む。
7. 灰オリーブ (5Y 5/2) 粘粒砂～中粘砂。
8. 黄褐色 (10Y R 5/6) 粘粒砂～中粘砂に灰褐色の黄色 (5Y 8/6) 粘土～細粒砂ブロック 5%含む。
9. 黄褐色 (10Y R 5/6) 粘土～細粒砂～中粘砂に灰褐色の黄色 (5Y 8/6) 粘土～細粒砂ブロック 3%含む。
10. 黄褐色 (2.5Y 5/6) 中粘砂。疏木準備と見る混じりけのない粘土。
11. 黄褐色 (2.5Y 5/6) 粘粒砂。混じりけのない粘土。
12. オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) シルト～細粒砂。
13. 黄褐色 (2.5Y 5/6) シルト～細粒砂に基礎砂粒砂ブロック20%含む。
14. 黄褐色 (2.5Y 5/6) シルト～細粒砂。
15. 黄褐色 (10Y R 5/6) 粘土。砂面じり。
16. 黄褐色 (10Y R 5/6) 粘土～シルト。混じりけのない粘質土。
17. 混合層。基礎砂。淡黄褐色 (10Y R 6/6) 粘土～中粘砂のブロック含む。

第18図 調査区平面・断面図 (1:70)

当地点の基本層序は、近世以後の耕作や既存建物の基礎地盤の影響によりプライマリーな状態をとどめていなかった。ただし土層断面図の16は、遺物こそ含まないものの、混じりけの少ない黄褐色粘土を主体とした土層であり、中世にさかのほる可能性も考えられる。

### (2) 検出遺構

柱穴、もしくは杭と見られる小ビットが13個検出された。このうちSP-2、3、4、5、13は規模、深度が一定するほか、柱痕をとどめるものが多く、矩形の配列を見ることから、同一建物の柱穴である可能性が高い。規模は東西3.56m、南北2.5m以上を計る。若干の須恵器片と土器器片から古墳時代後期に属する可能性が高い。

また東西の段丘ラインに並行して走る溝1～5は、若干の遺物から近世以後の耕作に伴うものと考えられる。なかでも溝3は、幅30cm、深さ25cmで、断面U字形に掘られ、砂の堆積から排水を意図して掘られたものと考えられる。

東側に隣接する本町遺跡第27次調査の成果とともに、段丘線辺付近まで古墳時代集落が広がることを明らかにした点は重要な成果である。

## 第V章 山ノ上遺跡第19次調査

### 1. 調査の経緯

個人住宅の建築に先立ち4月28日に確認調査を行ったところ、現地表下0.3m前後のところで遺構面を検出し、その上面で柱穴を確認した。

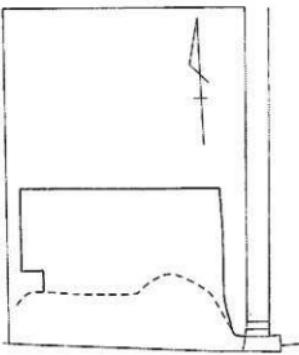
一方、施工業者によると、ガレージ部分に限って現地表より約0.7m下まで掘削する必要があり、協議の結果、この部分については記録保存が必要となつた。このため、ガレージ部分の掘削範囲となる40m<sup>2</sup>を対象に、本調査を行うことになった。

### 2. 調査の概要

#### (1) 基本層序

当調査区では、現地表から約0.3~0.5m下のところで、段丘形成層となる明黄褐色細粒砂層を確認した。

現地表面以下には、現状の宅地造成に伴う盛り土、その下には宅地化以前の耕作土、また調査

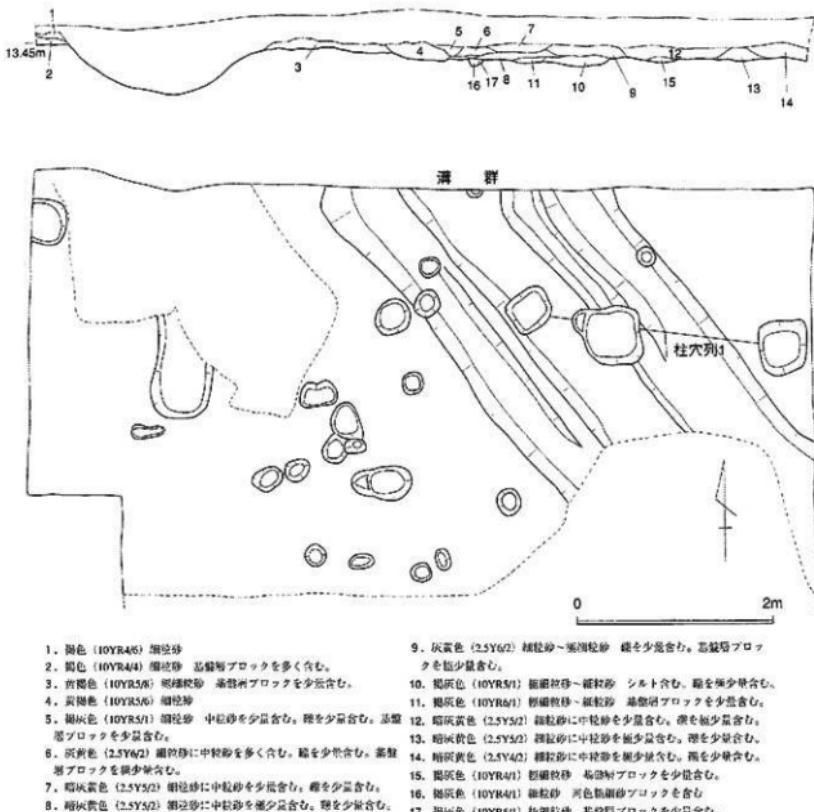


第19図 調査範囲図 (1:200)



第20図 調査位置図 (1:5,000)

## 2. 調査の概要



第21図 調査区平面・断面図 (1:50)

区東部の一部に限って遺物を含む褐灰色細粒砂層の順に堆積し、段丘形成層にいたる。

### (2) 検出した遺構

今回の調査では、遺構はすべて段丘形成層の上面で検出したが、一部には褐灰色細粒砂層の上面から掘削されたものもあると考えられる。

当調査区からは、多数の柱穴と溝4条を検出した。柱穴の多くは、後世の開発によって著しく削平されており、保存状態が良好なものでも深さ15cmを超えるものはなかった。以下、各遺構について報告する。

溝群 調査区東部で検出した4条以上の溝であるが、調査区北壁の断面にみえるとおり、

複雑に重複する。このため、それぞれの溝の規模は把握しにくいが、幅0.3~1.0mになると推定できる。埋土の堆積状況から、近世の耕地に伴う水路と考えられる。肥前系磁器碗や瓦が出土しており、19世紀頃の所産と考えられる。

**柱穴列1** 調査区北東部で検出した方形形状の平面形を呈する柱穴3基からなる。SP01はほとんど基底面しか残存していないため平面の形状は歪んでいるが、本来は方形であった可能性が残る。SP02・SP03は一辺0.55~0.6mをはかり、断面で確認された柱痕は直径25cmをはかる。

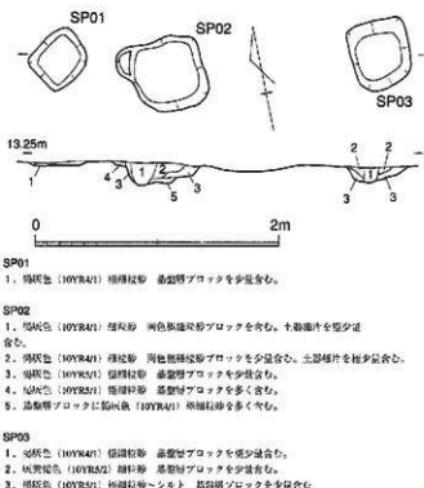
SP01とSP02の間隔は0.75m程度で、SP02とSP03の間隔は柱芯で1.9mをはかる。柱穴からは若干の遺物が出土したが、すべて細片であった。このため、柱穴列1の時期は特定できない。ただし、出土した遺物に古墳時代後期以降の所産と考えられる須恵器の細片が含まれていたことから、柱穴列1はこれ以降の所産と言える。

### 3.まとめ

当調査区は遺跡の南部にあって、その周囲には第3次調査区があるものの、あまり本格的な発掘調査は行なわれていない。第3次調査区では、弥生時代前期の溝などが確認されているが、当調査区との関連性は認められない。このため、集落の実態を具体化することはできない。

ただし、丘陵南側の緩斜面にまで、古墳時代以降の建物群が展開することが判明し、古墳時代から古代における当遺跡の集落範囲が丘陵の全域に広がる可能性が考えられるようになったことの成果は大きい。

また、今回検出した遺構から、調査区周間に集落関連遺構が分布することは容易に推定できる。よって、周辺における開発においては、集落が存在することを特に留意する必要がある。



第22図 柱穴列1平面・断面図 (1:40)



## 第VI章 蛍池西遺跡第17次調査

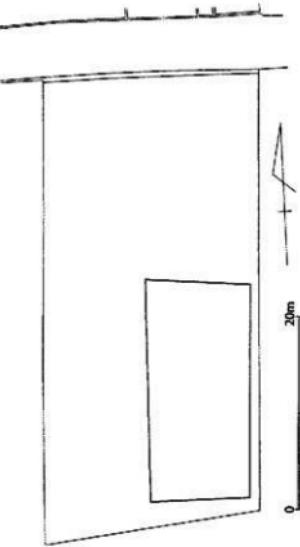
### 1. 調査の経緯

共同住宅の建築に伴い、5月22日に確認調査を行つたところ、現地表面下1.0~1.3mのところで基盤層を確認し、その上面で柱穴を検出した。

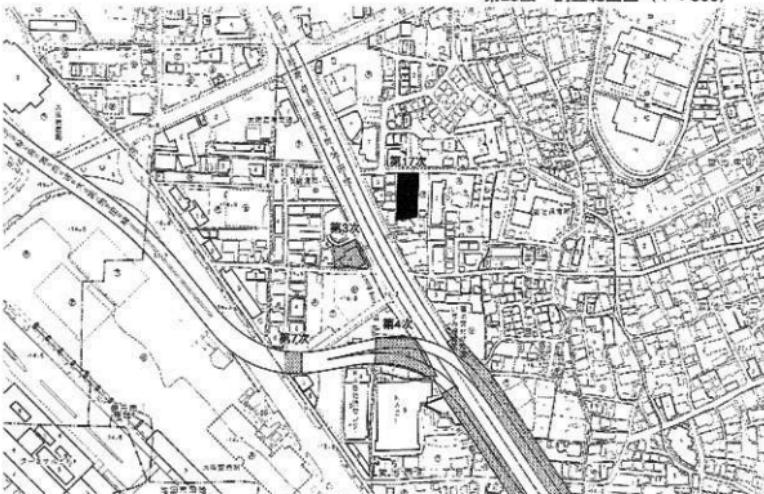
一方、計画されている建物は鉄筋コンクリート造3階建てで、耐震性能上の制約から建物の基礎構造は変更できないため、これらの遺構が破壊されることは避けられることとなり、記録保存のために発掘調査が必要とされた。

よって、協議を行ったところ、建築申請者は零細な事業主にあたることから、発掘調査にあたってはその一部を国庫補助の対象として行うことになった。

なお、確認調査で遺構が検出されたのは、敷地の東側に限定された。このことから、本調査も遺構が分布すると推定された、敷地東半分の220m<sup>2</sup>について行なつた。

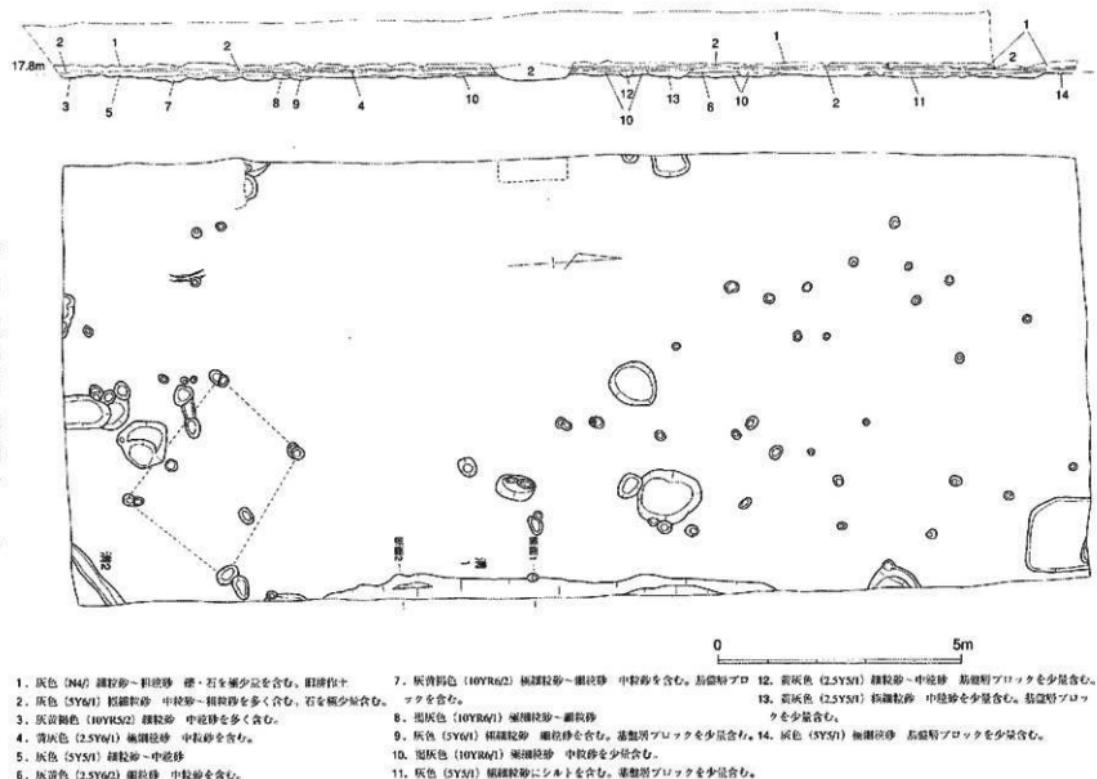


第23図 調査範囲図 (1:500)



第24図 調査地位置図 (1:5,000)

2. 調査区の概要



第25図 調査区平面・断面図 (1 : 100)

## 2. 調査の概要

### (1) 基本層序

当調査区では、現地表から約0.8~1.1m下まで現代の造成土、その下に耕作土、床土、灰~灰黄色細粒砂、褐灰色極細粒砂、段丘形成層となる明黄色極細粒砂層を確認した。また、これらの堆積土のうち、褐灰色極細粒砂層から極少量の遺物が出土した。

今回の調査では、遺構はすべて段丘形成層上面で検出したが、壁面における土層観察の結果、多くの遺構はその上層に堆積する褐灰色極細粒砂層の上面から掘削されていたことが確認された。

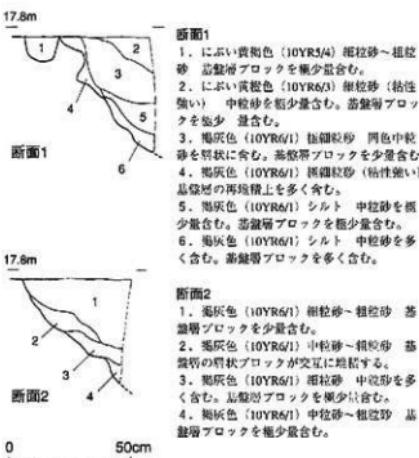
### (2) 検出した遺構

当調査区からは多数の柱穴・土坑と溝3条を検出した。これらの遺構は、上層に堆積する褐灰色極細粒砂層の上面から掘削されているため、検出時に保存状態が良好なものは少なかった。また、柱穴からは建物に復元できるものはなかった。ただし、それぞれ北東あるいは北西方向に沿っていくつかの柱穴列は復元できるので、簡素な獨立柱建物が展開した可能性は十分にある。以下、主要な遺構について報告する。

**溝 1** 調査区東部で検出した、南北9m以上に伸びる溝である。そのほとんどが調査区の東側にあるため、規模は明確にはできない。ただし、検出部分で幅0.4m、深さ0.45mをはかるので、相当の規模になると想定できる。

堆積土のうち、上層部分は人為的な埋め戻しによる堆積土、下層は流出した基盤層が再堆積したものとなる。この間に止水性の堆積土は確認できないことから、水が流れたり、當時溜まるような環境にはなかったと判断でき、河川や水路の可能性は否定できる。一方、柱穴などの遺構は、調査区の東側に向かって密度を増す傾向にある。このことをふまえると、この溝が建物群の周間に巡らされた区画溝になる可能性が高い。

なお、溝1からは古墳時代後期以降の所産と考えられる須恵器壺の体部片が出土しており、それ以降に掘



第26図 溝1断面図 (1:20)

### 3. まとめ

削されたと推定される。

溝 2 調査区南東端で検出した幅25cm、深さ5cm前後の溝である。本来は包含層上面から掘削されていたと考えられるので、実際の規模はこれ以上となる。この溝からは古墳時代後期以降の須恵器片が出土しており、溝1と同じくそれ以降の所産と推定される。

### 3. まとめ

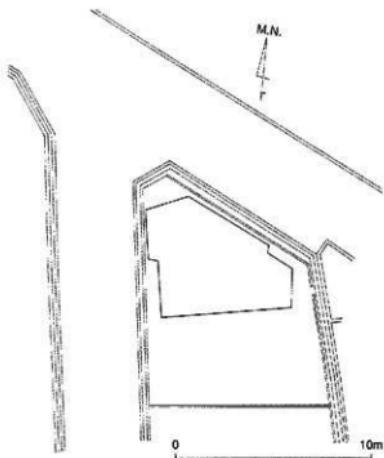
今回の調査は、螢池西遺跡北部における集落の初めての発掘調査となる。これまで、この遺跡の中部から南部にかけて、阪神高速自動車道池田延伸線の建設に伴って、本格的な発掘調査が行なわれてきた。その調査では、弥生時代終末期～古墳時代中期の集落・河川、古墳時代後期～奈良時代の粘土探査坑群、平安時代中期の建物群などが確認されている。また、第3次調査区では、弥生時代終末期から古代の溝が確認されている。しかし、今回の調査区と阪神高速自動車道の調査区などは離れており、今のところそれぞれの調査区を関連づけることはできない。

一方、今回の調査で出土した遺物は少なく、溝1・溝2が古墳時代以降に推定できる以外に、各遺構の時期は特定しにくい。また検出した柱穴から、明確な建物は復元できなかつたため、集落の性格については今後の課題としておきたい。ただし、今回検出した溝1・溝2は、調査区の東側へさらに広がることは明らかである。特に、調査区の東側に古墳時代以降の建物群の中心があることは、十分に予見される。よって、周辺における開発においては、集落および単独の建物群が存在することを、特に留意する必要がある。

## 第VII章 内田遺跡第9次調査

### 1. 調査の経緯

当調査区は桜の町3丁目26-1に所在する。平成21年7月21日に提出された埋蔵文化財発掘調査の届出に基づいて、平成21年8月6日に確認調査を行ったところ、地表下50cmで遺構面を確認した。予定建物の基礎は当初遺構面に達しない計画であったが、その後、設計変更で地表下2mに及ぶ柱状地盤改良工事を実施することになったため、遺構面の破壊は免れず、協議の結果、本発掘調査を実施することになった。調査期間は平成21年9月1日から9月10日、調査面積は28m<sup>2</sup>である。



第27図 調査範囲図（1：250）



第28図 調査位置図（1：5,000）

## 2. 調査の概要

### (1) 遺跡の概要

内田遺跡は千里川西岸の中～低位段丘上、標高35～38mのなだらかな地形上に立地する集落遺跡である。昭和62年（1987）の遺跡発見からこれまでに実施された8回の発掘調査の結果、遺跡の盛期は古墳時代後期～飛鳥時代（6世紀後半～7世紀初頭）であることが判明している。この古墳時代後期～飛鳥時代の集落は、府道箕面豊岡線よりも東方に展開しており、竪穴住居および掘立柱建物で構成され、千里川流域における当該期の集落としては本町遺跡に次ぐ規模であったとみられる。さらに遺跡北方、千里川上流域に展開する桜井谷窯跡群における須恵器生産に直接関与した集落であった可能性が高い。その一方で、遺跡東端部の段丘末端付近でなされた第2次調査では绳文後期の遺構と遺物が、同西端部（柴原町3丁目地内）で実施された第8次調査においては幅約3mの堀を作り中世後期（15～16世紀代）の居館跡が検出されるなど、他時期の集落関連遺構の存在も確認されている。

遺跡北端部に位置する今回の調査地一帯は、内田遺跡のなかでも実態が不明瞭な地域であったが、発掘調査に先立つ確認調査時に中世とみられる土器片を伴う遺構が検出されたことから、調査地一帯には該期の集落関連遺構が所在する可能性がある。

### (2) 基本層序

当調査区における基本層序は4層で構成され、現地表面から遺構検出面まではおよそ50cmの深度をはかる。

第1層 現代の盛土である。層厚は約40cmである。

第2層 ぶい黄橙色（10YR6/4）極細粒砂。層厚は約5cmである。宅地化直前段階までの耕作土である。

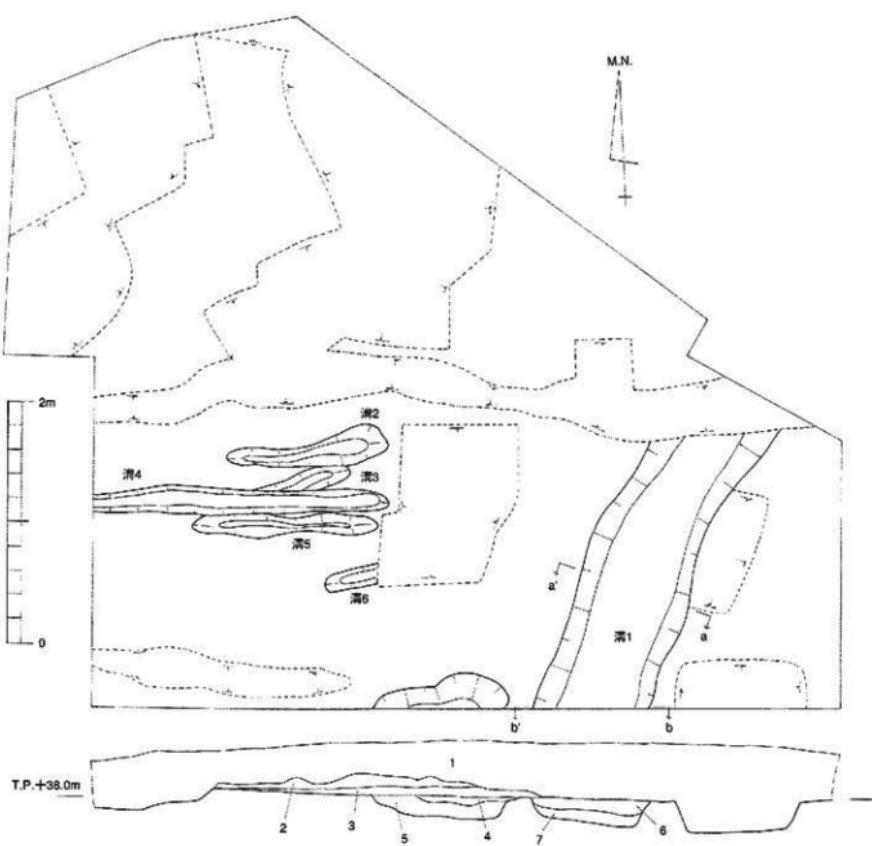
第3層 灰黄褐色極細粒砂（10YR5/3）極細粒砂。層厚約5cmである。古墳時代～近世にわたる遺物包含層である。

第4層 明黄褐色（10YR6/6）極細粒砂。当調査区における基盤層・遺構検出面である。

### (3) 検出した遺構

基盤層（第4層）上面において検出した遺構は第29図に示す通りであり、その概要是以下の通りである。

・溝1 調査区内における検出幅、深度はそれぞれ約1m、0.15mであり、検出状態からして調査区外へと直線状に伸びていくとみられる。溝1は、基底面はほぼ平坦であり、埋土を観察する限り、機能時は水路など常に水を張った状態よりは、土地境界を明示するための区画溝などといった水路以外の利用形態が想定される。また、溝1の基底面付近では、大小の角礫（最

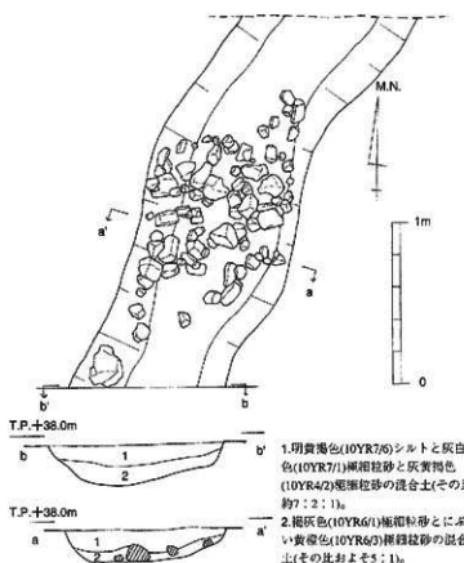


1. 現代の盛土。
2. にぶい黄褐色(10YR6/4)細粒砂。旧耕作土。礫(底径1cm未満)を少量含む。
3. 斑状黄褐色細粒砂(10YR5/3)細粒砂。古墳時代～近世の遺物包含層。
4. にぶい黄褐色(10YR7/3)細粒砂。灰白色(10YR7/1)細粒砂を約20%含む。
5. 明黄褐色(10YR7/6)シルト～糊糊粒砂。灰黄褐色粗粒粒砂ブロック(底径2cm以下)を少量含む。
6. 明黄褐色(10YR7/6)シルトと白土(10YR7/1)細粒砂。灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂の混合土(比率はおよそ7:1)。
7. 海灰色(10YR6/1)細粒砂とにぶい黄褐色(10YR6/4)細粒砂の混合土(約5:1)。
8. 明黄褐色(10YR6/6)シルト～糊糊粒砂。当該調査区の基盤層。

第29図 調査区平面・断面図 (1:40)

大径5～20cm)が集中する箇所(以下、「礫群」と呼ぶ)がみとめられた(第30図)。礫群は東西約1m、南北約1.3mの範囲に集中し、大半の礫は重複せず基底面を覆うような検出状態であったことから、人為的に溝の中に配置された可能性が高く、内田遺跡西端で検出された中世居

## 2. 調査の概要



第30図 溝1平面・断面図 (1:30)

なかでも土師器小皿片の特徴を参考にすれば、溝1が利用された時代は中世とみられる。

・溝2～溝6 調査区西部で検出した東西方向の溝跡である。これらは、検出幅15～30cm、深度5cm未満の非常に深度の浅い溝跡群であり、検出状況からほぼ同時期とみてよいと考えられる。一方、溝1との関係は、溝の方向が平行または直交のいずれにも該当しないことと、埋土の特徴が異なることから同時併存はなかったであろう。溝を埋めた土からは少量ながら土師器・磁器破片が出土しており、これら遺物の特徴と埋土の観察から、溝跡群は近世以降の耕作に伴う鋤溝跡とみられる。

### (4) 出土遺物

今回、遺構に伴う遺物は溝1～溝6からの中世～近世遺物（土師器、磁器）であったが、先述の通り少量かつ碎片であったため、図化し得ていない。一方、遺構に伴わない遺物は大半が基本層3層（遺物包含層）からの出土であり、なかでも須恵器片が目立った。第31図はいずれも3層出土である。1の須恵器坏身は端部が欠けているものの、形態的な特徴から古墳時代終末期墳（TK209型式）の時期が考えられる。2の土師器はいわゆる「へそ皿」と呼ばれる小皿片である。3は肥前系陶器皿であろう。復元口縁部直径は約11cmである。2・3は16～17世紀

館（第8次調査）や旧内田村集落との関連について検討が必要な遺構である。疊群中に一部焦げた痕跡を残すものが存在することは、これらの疊が当時の生活のなかで使用されたことを示すものと考えたい。

溝1出土の疊はもともと調査地下で産出されるものではなく、外部から持ち込まれたと考えられる。その場合の産出地の候補としては、調査地東方を貫流する千里川が挙げられる。現在、桜の町付近における千里川は洪水対策として護岸工事が施されているが、近世以前は疊を採集することが可能な環境であったと考えられる。

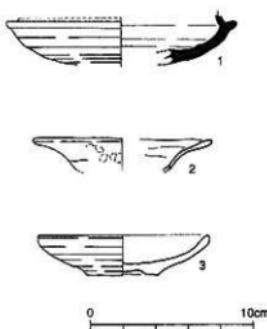
当該溝中からは少量ながら土師器や須恵器碎片が出土しており、

代墳の遺物とみられ、付近に該期集落の存在を示唆している。

### 3.まとめ

今回の調査では中世の集落関連遺構を確認した。中世集落は、第8次調査成果に示されるように遺跡西半部（旧柴原村一帯）が注目される所であったが、今回の成果によって調査区一帯にも中世集落が所在する可能性が出来た。明治18年の仮製地形図（大日本帝国陸軍陸地測量部作成）に当該調査地点を重ね合わせると、調査地点は旧内田村の一角であることから、今回確認された溝1は、内田村集落に先立つ中世集落の一部である可能性も考えられる。ただし、中世集落については今回溝跡を確認したのみで、居住域（建物跡群）は未検出である。よって今後は、遺跡東半部における中世集落の動態を検討するための契機として、今回の調査成果は重要な意義を持つと考えられる。

その一方で、古墳時代後期～飛鳥時代の集落については、調査地付近では縁辺部であろうことも判明し、該期集落の北限を検討する上でも大きな指標を得ることになった。



第31図 出土遺物 (1 : 3)



## 第VIII章 確認調査の成果

### 確認調査の概要

昨年度1月～3月および今年度4月～12月の間に個人住宅を対象に行なった確認調査は、51件を数え、昨年度14件、今年度37件という内訳である。このうち、15件の調査で遺構等が確認され、うち4件については協議の結果、豊島北遺跡第5次調査、本町遺跡第36次調査、内田遺跡第9次調査および新免遺跡第63次調査として本格的な発掘調査を行なうこととなった。残り11件については、建物基礎の設計変更などから、本格的な発掘調査には至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第32図に掲載した調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

第1表 確認調査一覧表

番号	地名	調査地	調査日	調査場所	実積 (m <sup>2</sup> )	確認箇所の 年次	調査地の位置	担当者	備考
1	小曾根遺跡	北条町丁目38-1-2	2009/1/18	個人住宅建設	39.16	左	右上	専工	
2	西尾遺跡	横浜市西区丁目42-6	2009/1/29	個人住宅建設	61.27	左	右上	専工	専工
3	小舟町遺跡	小舟町丁目23-8	2009/1/27	個人住宅建設	48.92	左	右上	専工	専工
4	山ノ上遺跡	山ノ上町90-27-2階	2009/1/25	個人住宅建設	69.51	左	右上	専工	専工
5	白川上遺跡	白川上町90-2の2階	2009/1/22	個人住宅建設	187.50	右	右上	専工	専工
6	宝町遺跡群	中橋町丁目12-1	2009/2/19	個人住宅建設	41.89	無	右上	専工	
7	巣山北遺跡	谷林町丁目156-9,10	2009/2/26	個人住宅建設	68.23	右	右上	専工	専工
8	東町・塙町	所沢市東町1丁目1-1	2009/3/5	個人住宅建設	69.21	左	右上	専工	専工
9	新免遺跡	新免町9丁目23-12	2009/3/5	個人住宅建設	128.16	右	再立会社、筑工工事	専工	専工
10	内田遺跡	内田町9丁目47-5	2009/3/5	個人住宅建設	43.95	右	再立会社、筑工工事	専工	専工
11	新免遺跡	五月丘町1丁目4-9	2009/3/12	個人住宅建設	83.18	右	再立会社、筑工工事	調査	設計変更
12	大庭遺跡群	赤坂町2丁目22-1-3	2009/3/12	個人住宅建設	54.94	無	右上	専工	専工
13	本町遺跡	本町4丁目66-1	2009/3/23	個人住宅建設	53.15	右	本町街(小町通り)	専工	
14	新免遺跡	新免町9丁目12-1	2009/3/23	個人住宅建設	95.94	無	右上	専工	
15	笠塚西遺跡	笠塚西町1丁目84-2,85	2009/4/2	個人住宅建設	88.31	左	右上	専工	専工
16	内田遺跡	内田町9丁目28-1	2009/4/3	個人住宅建設	41.11	左	右上	専工	専工
17	内田遺跡	内田町9丁目28-14	2009/4/30	個人住宅建設	89.23	左	右上	専工	専工
18	新免遺跡	新免町4丁目49	2009/5/21	個人住宅建設	82.80	右	再立会社、筑工工事	専工	専工
19	東町・塙町	所沢市東町1丁目10-4	2009/5/21	個人住宅建設	35.81	左	右上	専工	専工
20	鹿町西遺跡・鹿町北遺跡群	鹿町西町4丁目36-3	2009/6/1	個人住宅建設	54.00	無	右上	専工	専工
21	麻生遺跡群	麻生町3丁目32-2	2009/6/22～26	所有地確認	91.00	右	再立会社、筑工工事	専工	本町北側 838mE-440mN
22	内田・高井遺跡	内田町3丁目104-2	2009/6/41	個人住宅建設	68.80	無	右上	専工	
23	新免北遺跡	新免町9丁目16-5	2009/6/41	個人住宅建設	59.27	左	右上	専工	専工
24	御門町・松原古墳群	御門町7丁目35-5	2009/6/16	個人住宅建設	79.76	中海跡	右上	専工	専工
25	上野町古墳群	上野町4丁目10-3	2009/6/16	個人住宅建設	62.11	左	右上	専工	専工
26	北町遺跡	北久保4丁目387-11	2009/6/30	個人住宅建設	44.71	右	右上	専工	専工
27	佐治北遺跡	佐治北町4丁目16-2	2009/7/16	個人住宅建設	43.39	右	右上	専工	専工
28	内田遺跡	内田町3丁目112-6	2009/7/20	個人住宅建設	54.86	左	右上	専工	専工
29	内田遺跡	内田町3丁目26-1	2009/8/6	個人住宅建設	62.80	右	本町北(内田9丁)	専工	
30	新免北遺跡	新免町9丁目43-7,8	2009/8/6	個人住宅建設	51.75	左	右上	専工	専工
31	新免遺跡	新免町2丁目33-3	2009/8/6	個人住宅建設	89.55	右	再立会社、筑工工事	専工	設計変更
32	内田遺跡	内田町4丁目66-1	2009/8/29	個人住宅建設	86.35	右	右上	専工	専工
33	内田遺跡	内田町4丁目38-8	2009/8/31	個人住宅建設	68.24	右	右上	専工	専工
34	新免北遺跡	新免町1丁目11-3,9	2009/9/7	個人住宅建設	89.00	右	相模二工	専工	高得点
35	新免北遺跡	新免町1丁目9-2	2009/9/3	個人住宅建設	45.02	右	専工	専工	
36	利金遺跡	利金町3丁目903-10	2009/9/19	個人住宅建設	35.39	右	右上	専工	専工

## 確認調査一覧表

番号	地名	地番	面積(m²)	個人住宅棟数	面積(m²)	所有者	既存工事	新規工事	既存活
37	東光町	東光町1丁目150-5	20090617	個人住宅棟数	62.94	有	既存会社、既存工事	新規	既存活
38	山ノ上道駅	東光町1丁目59	20090617	個人住宅棟数	61.73	無		新規	
39	少路通駅	東光町1丁目16-47	20090621	個人住宅棟数	62.95	無	新工事	新規	
40	東光北通駅	東光町1丁目16-5	20091008	個人住宅棟数	41.71	中建店	新工事	新規	既存活
41	横井新田駅前	東光町1丁目49-10の一部	20091009	個人住宅棟数	46.65	無	新工事	新規	
42	横井新田駅	東光町1丁目16-2	20091009	個人住宅棟数	62.93	無	新工事	新規	
43	東光西駅	東光町1丁目93-3	20091022	個人住宅棟数	65.55	有	本請負(既存会社)	新規	
44	横井古賀駅	東光町1丁目27-5	20091029	個人住宅棟数	67.30	有	新工事	新規	
45	横井新田駅前	東光町4丁目15-6	20091029	個人住宅棟数	58.93	無	新工事	新規	
46	横井北通駅	東光町1丁目720-60-3	20091029	個人住宅棟数	41.28	無	新工事	新規	
47	西浦通駅	西浦通町3丁目18-1	20091108	個人住宅棟数	37.25	有	既存会社、既存工事	新規	既存活
48	横井新田駅前	東光町4丁目49-2	20091112	個人住宅棟数	563.71	無	新工事	新規	
49	山内駅前	西門東町4丁目51-4	20091112	個人住宅棟数	81.81	無	新工事	新規	
50	少路通駅	東光町1丁目64	20091112	個人住宅棟数	76.23	無	新工事	新規	
51	横井新田駅	横井新田1丁目254-18	20091108	個人住宅棟数	70.38	有	新工事	新規	既存活



第32図 確認調査地点位置図

確認調査（2009-01~08）

### 2009-01 小曾根遺跡

調査日：平成21年（2009年）1月15日

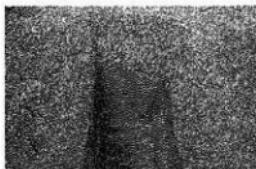
調査場所：豊中市北条町1丁目312-23

調査対象面積：30.16m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第33図 トレンチ掘削状況



第34図 トレンチ断面図

### 2009-02 穂積遺跡

調査日：平成21年（2009年）1月29日

調査場所：豊中市穂積町2丁目82-8

調査対象面積：64.27m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第35図 トレンチ掘削状況



第36図 トレンチ断面図

### 2009-03 小曾根遺跡

調査日：平成21年（2009年）2月12日

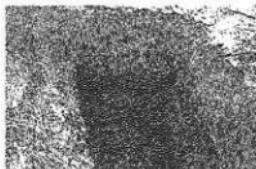
調査場所：豊中市小曾根1丁目219-6

調査対象面積：46.32m<sup>2</sup>

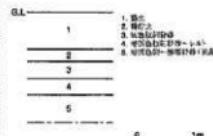
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下180cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第37図 トレンチ掘削状況



第38図 トレンチ断面図

### 2009-04 山ノ上遺跡

調査日：平成21年（2009年）2月12日

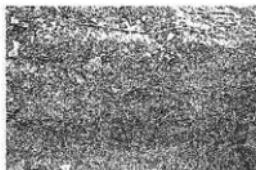
調査場所：豊中市山ノ上町90-2の一部

調査対象面積：68.81m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下75cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第39図 トレンチ掘削状況



第40図 トレンチ断面図

## 2009-05 山ノ上遺跡

調査日：平成21年（2009年）2月12日

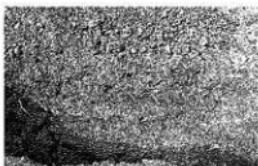
調査場所：豊中市山ノ上町90-2の一部

調査対象面積：107.50m<sup>2</sup>

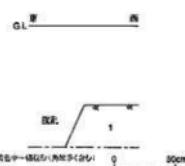
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下65cmにおいて古墳壙を検出したが、辯構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第41図 トレンチ掘削状況



第42図 トレンチ断面図

## 2009-06 桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）2月19日

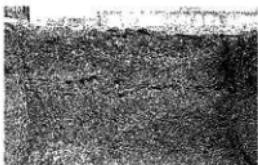
調査場所：豊中市中桜塚2丁目123

調査対象面積：41.89m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下40cmにおいて古墳壙を検出したが、古墳周囲の遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第43図 トレンチ掘削状況



第44図 トレンチ断面図

## 2009-07 豊島北遺跡

調査日：平成21年（2009年）2月26日

調査場所：豊中市曾根南町1丁目

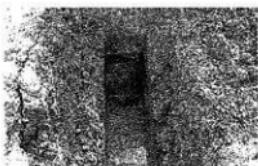
156-9,10

調査対象面積：66.35m<sup>2</sup>

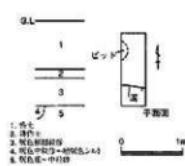
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下140cmにおいて古墳時代の溝・柱穴と考えられるピットを検出した。

調査後の処置：協議後、発測調査を行う。（豊島北遺跡第5次調査）



第45図 トレンチ掘削状況



第46図 トレンチ平面・断面図

## 2009-08 桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）3月5日

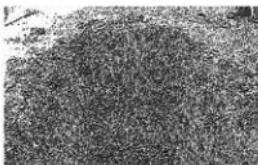
調査場所：豊中市南桜塚1丁目15-1

調査対象面積：69.31m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下85~90cmにおいて古墳壙を検出したが、古墳周囲の遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第47図 トレンチ掘削状況



第48図 トレンチ断面図

### 2009-09 蛍池遺跡

調査日：平成21年（2009年）3月5日

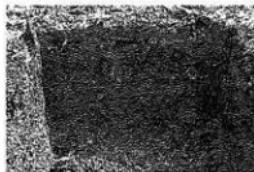
調査場所：豊中市螢池中町3丁目128

調査対象面積：128.10m<sup>2</sup>

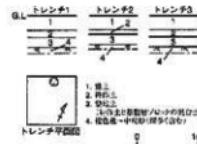
調査の方法：重機によりトレント3か所を掘削し、トレント内を精査した。

調査の概要：トレント1において地表下52cmで基盤骨を、その上面で遺構を検出したが、トレント2・3では遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：基礎工事は追跡検査面に達しないため、再立会後、慎重工事を指示。



第49図 トレント掘削状況



第50図 トレント平面・断面図

### 2009-10 内田遺跡

調査日：平成21年（2009年）3月5日

調査場所：豊中市板の町3丁目47-5

調査対象面積：53.93m<sup>2</sup>

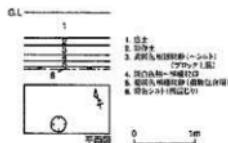
調査の方法：重機によりトレント1か所を掘削し、トレント内を精査した。

調査の概要：地表下82cmにおいて遺物包含層を、同90cmにおいて基盤骨とその上面で明確な遺構を検出した。

調査後の処置：基礎工事は遺物包含層に達しないため、再立会後、慎重工事を指示。



第51図 トレント掘削状況



第52図 トレント平面・断面図

### 2009-11 新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）3月12日

調査場所：豊中市玉井町3丁目14-9

調査対象面積：63.18m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレント1か所を掘削し、トレント内を精査した。

調査の概要：地表下43cmにおいて遺物包含層を、同48cmでは基盤骨とその上面で明確な遺構を検出した。

調査後の処置：遺物基礎の設計変更により、再立会後、慎重工事を指示。



第53図 トレント掘削状況



第54図 トレント平面・断面図

### 2009-12 太鼓塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）3月12日

調査場所：豊中市永楽荘2丁目233-3

調査対象面積：54.94m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレント1か所を掘削し、トレント内を精査した。

調査の概要：地表下52cmにおいて基盤骨を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第55図 トレント掘削状況



第56図 トレント断面図

## 2009-13 本町遺跡

調査日：平成21年（2009年）3月26日

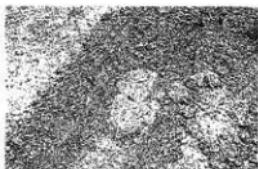
調査場所：豊中市本町4丁目166-4

調査対象面積：53.25m<sup>2</sup>

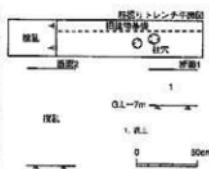
調査の方法：重機により筋掘りトレーニー1か所を掘削し、トレーニー内を精査した。

調査の概要：地表下30cmにおいて埴蓋層を確認し、その上面で柱穴2基を検出した。

調査後の処置：確認後、発掘調査を行う。（木町遺跡第36次調査）



第57図 トレーニー掘削状況



第58図 トレーニー平面・断面図

## 2009-14 新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）3月26日

調査場所：豊中市玉井町2丁目124

調査対象面積：65.02m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレーニー2か所を掘削し、トレーニー内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下55cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第59図 トレーニー配図図



第60図 トレーニー断面図

## 2009-15 蛍池西遺跡

調査日：平成21年（2009年）4月2日

調査場所：豊中市螢池西町1丁目

4-2.4, 6-4.7

調査対象面積：68.31m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレーニー2か所を掘削し、トレーニー内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下50cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第61図 トレーニー掘削状況



第62図 トレーニー断面図

## 2009-16 穂積遺跡

調査日：平成21年（2009年）4月30日

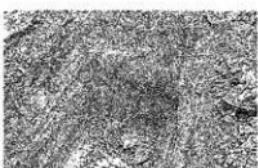
調査場所：豊中市穂積元町1丁目81

調査対象面積：51.11m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレーニー1か所を掘削し、トレーニー内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下130cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第63図 トレーニー掘削状況



第64図 トレーニー断面図

確認調査（2009-17～20・22～25）

### 2009-17 庄内遺跡

調査日：平成21年（2009年）4月30日

調査場所：豊中市庄内西町4丁目38-14

調査対象面積：50.22m<sup>2</sup>

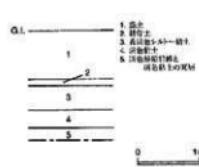
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下180cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第65図 トレンチ掘削状況



第66図 トレンチ断面図

### 2009-18 本町遺跡

調査日：平成21年（2009年）5月21日

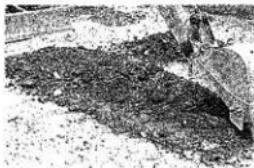
調査場所：豊中市本町4丁目49

調査対象面積：52.80m<sup>2</sup>

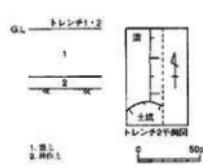
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下50cmにおいて当該層を、その上面から遺構を検出した。

調査後の処置：建物の基礎掘削深度は築作上面上にとどまることから、慎重工事を指示。



第67図 トレンチ掘削状況



第68図 トレンチ平面・断面図

### 2009-19 服部遺跡

調査日：平成21年（2009年）5月21日

調査場所：豊中市皆板東町6丁目10-4

調査対象面積：35.81m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下190cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第69図 トレンチ掘削状況



第70図 トレンチ断面図

### 2009-20 熊野田遺跡・桜井谷窯跡群

調査日：平成21年（2009年）6月4日

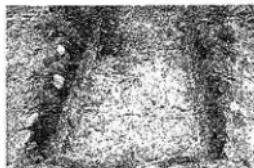
調査場所：豊中市熊野町4丁目98-3

調査対象面積：54.00m<sup>2</sup>

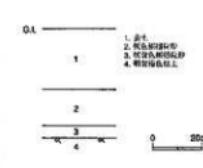
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下45cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第71図 トレンチ掘削状況



第72図 トレンチ断面図

## 2009-22 桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）6月11日

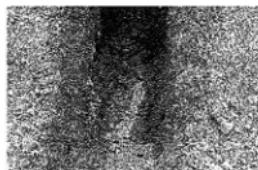
調査場所：豊中市南桜塚3丁目104-2

調査対象面積：48.66m<sup>2</sup>

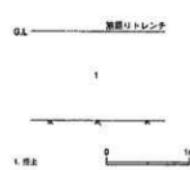
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：既存建物の基礎によって著しく削平されており、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第73図 トレンチ掘削状況



第74図 トレンチ断面図

## 2009-23 桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）6月11日

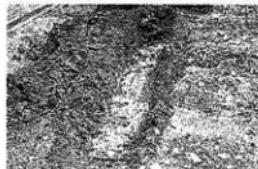
調査場所：豊中市南桜塚3丁目104-2

調査対象面積：49.27m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：既存建物の基礎によって著しく削平されており、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第75図 トレンチ掘削状況



第76図 トレンチ断面図

## 2009-24 岡町遺跡・桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）6月18日

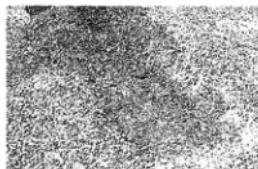
調査場所：豊中市中桜塚2丁目353-8

調査対象面積：70.78m<sup>2</sup>

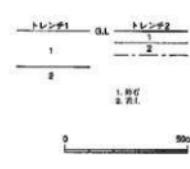
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下15cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第77図 トレンチ掘削状況



第78図 トレンチ断面図

## 2009-25 太鼓塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）6月25日

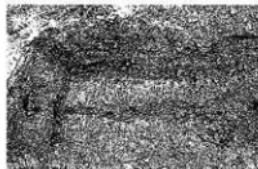
調査場所：豊中市永楽荘3丁目30-3

調査対象面積：62.41m<sup>2</sup>

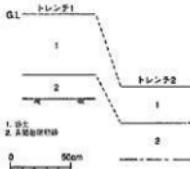
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下50・70cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第79図 トレンチ掘削状況



第80図 トレンチ断面図

### 2009-26 北条遺跡

調査日：平成21年（2009年）7月2日

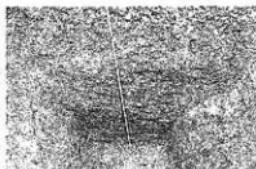
調査場所：豊中市北条町4丁目1871-11

調査対象面積：44.71m<sup>2</sup>

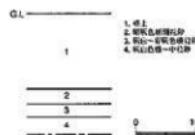
調査の方法：重機によりトレント1か所を掘削し、トレント内を検査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第81回 トレント掘削状況



第82回 トレント断面図

### 2009-27 蛍池北遺跡

調査日：平成21年（2009年）7月16日

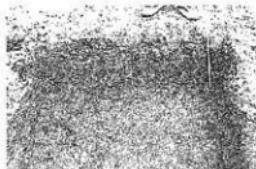
調査場所：豊中市螢池北町2丁目16-2

調査対象面積：43.39m<sup>2</sup>

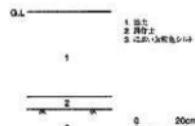
調査の方法：重機によりトレント1か所を掘削し、トレント内を検査した。

調査の概要：地表下40cmにおいて基盤壁を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第83回 トレント掘削状況



第84回 トレント断面図

### 2009-28 庄内遺跡

調査日：平成21年（2009年）7月30日

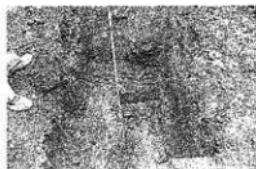
調査場所：豊中市庄内町3丁目112-6

調査対象面積：54.08m<sup>2</sup>

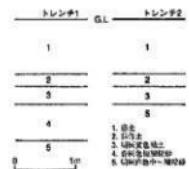
調査の方法：重機によりトレント2か所を掘削し、トレント内を検査した。

調査の概要：掘削深度（地表下140・200cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第85回 トレント掘削状況



第86回 トレント断面図

### 2009-29 内田遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月6日

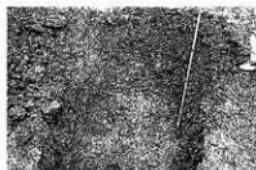
調査場所：豊中市桜の町3丁目26-1

調査対象面積：52.86m<sup>2</sup>

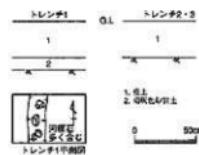
調査の方法：重機により坪振りトレント2か所、筋振りトレント1か所を掘削し、トレント内を検査した。

調査の概要：トレント1で地表下30cmにおいて、15世紀の断垣状遺構を検出した。

調査後の処置：協議後、発掘調査を行う。  
(内田遺跡第9次調査)



第87回 トレント掘削状況



第88回 トレント断面図

## 2009-30 蛍池西遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月6日

調査場所：豊中市螢池西町1丁目43-7.8

調査対象面積：51.75m<sup>2</sup>

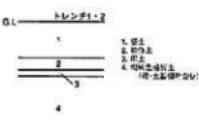
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下100cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第89図 トレンチ掘削状況



第90図 トレンチ断面図

## 2009-31 新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月6日

調査場所：豊中市亞井町2丁目213-1

調査対象面積：59.85m<sup>2</sup>

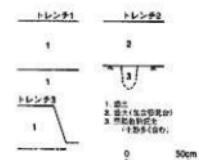
調査の方法：重機によりトレンチ3か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ2で地表下37cmにおいて基礎構造を、その上面で遺構を検出した。

調査後の処置：再立会後、慎重工事を指導。



第91図 トレンチ掘削状況



第92図 トレンチ断面図

## 2009-32 本町遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月20日

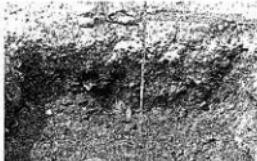
調査場所：豊中市本町4丁目184-1

調査対象面積：56.30m<sup>2</sup>

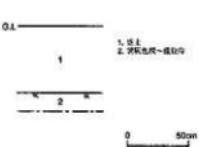
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下55~60cmにおいて基礎構造を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第93図 トレンチ掘削状況



第94図 トレンチ断面図

## 2009-33 庄内遺跡

調査日：平成21年（2009年）8月21日

調査場所：豊中市庄内西町4丁目38-8

調査対象面積：66.24m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200cm）において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第95図 トレンチ掘削状況



第96図 トレンチ断面図

### 2009-34 本町遺跡

調査日：平成21年(2009年)8月27日

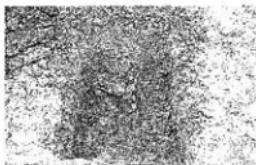
調査場所：豊中市本町4丁目71-5,6

調査対象面積：80.00m<sup>2</sup>

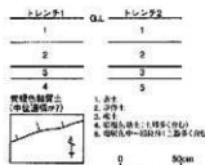
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下50cmで遺物を非常に多く含む包含層（遺構埋土）を検出した。

調査後の処置：遺物基盤は遺物包含層より浅いため、確認調査後、積重工事を指示。



第97図 トレンチ掘削状況



第98図 トレンチ平面・断面図

### 2009-35 桜塚古墳群

調査日：平成21年(2009年)9月3日

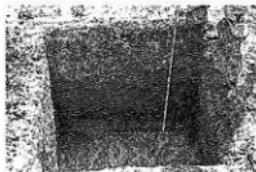
調査場所：豊中市南桜塚1丁目9-2

調査対象面積：45.02m<sup>2</sup>

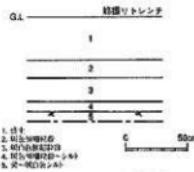
調査の方法：重機により筋振りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下78cmにおいて基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第99図 トレンチ掘削状況



第100図 トレンチ断面図

### 2009-36 利倉遺跡

調査日：平成21年(2009年)9月10日

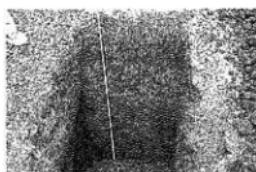
調査場所：豊中市利倉2丁目903-10

調査対象面積：37.30m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下145cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第101図 トレンチ掘削状況



第102図 トレンチ断面図

### 2009-37 新免遺跡

調査日：平成21年(2009年)9月17日

調査場所：豊中市立花町1丁目150-5

調査対象面積：50.94m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下45~46cmにおいて遺物包含層を検出し、トレンチ1では地表下61cmで基盤層とその上面で遺構を確認した。

調査後の処置：再立会後、積重工事を指示。



第103図 トレンチ掘削状況



第104図 トレンチ平面・断面図

## 2009-38 山ノ上遺跡

調査日：平成21年（2009年）9月17日

調査場所：豊中市立花町1丁目59

調査対象面積：51.75m<sup>2</sup>

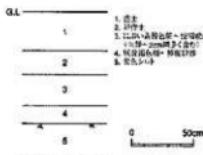
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下90cmにおいて出盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第106図 トレンチ掘削状況



第106図 トレンチ断面図

## 2009-39 少路遺跡

調査日：平成21年（2009年）9月24日

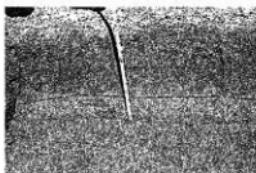
調査場所：豊中市宮山町1丁目16-4.7

調査対象面積：82.69m<sup>2</sup>

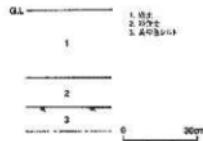
調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下40cmにおいて基礎層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第107図 トレンチ掘削状況



第107図 トレンチ断面図

## 2009-40 莳池北遺跡

調査日：平成21年（2009年）10月1日

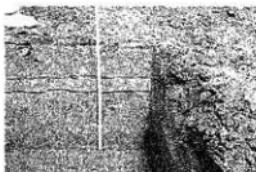
調査場所：豊中市莧池北町1丁目130-5

調査対象面積：44.71m<sup>2</sup>

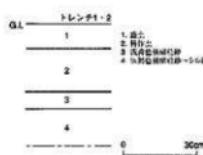
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下50cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第108図 トレンチ掘削状況



第108図 トレンチ断面図

## 2009-41 桜井谷窯跡群

調査日：平成21年（2009年）10月9日

調査場所：豊中市熊野町4丁目

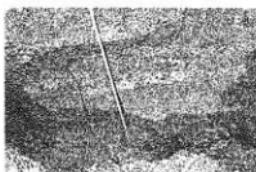
50-1の一部

調査対象面積：48.65m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下100cmにおいて基礎層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第109図 トレンチ掘削状況



第109図 トレンチ断面図

### 2009-42 桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）10月9日

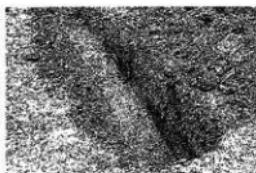
調査場所：豊中市南桜塚1丁目132-2

調査対象面積：62.93m<sup>2</sup>

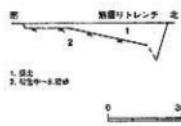
調査の方法：重機により筋掘りトレンチ1か所を鋤削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下20～90cmで基盤層を検出したが、古墳に埋蔵する道標・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第113図 トレンチ掘削状況



第114図 トレンチ断面図

### 2009-43 新免遺跡

調査日：平成21年（2009年）10月22日

調査場所：豊中市玉井町2丁目213-3

調査対象面積：65.55m<sup>2</sup>

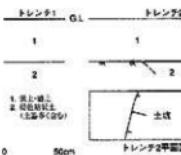
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を鋤削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下35cmにおいて道標面及び大型土坑を検出した。

調査後の処置：協議後、発掘調査を行う。  
(新免遺跡第63次調査)



第115図 トレンチ掘削状況



第116図 トレンチ平面・断面図

### 2009-44 桜塚古墳群

調査日：平成21年（2009年）10月29日

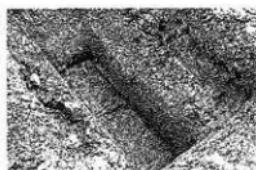
調査場所：豊中市南桜塚1丁目27-5

調査対象面積：67.33m<sup>2</sup>

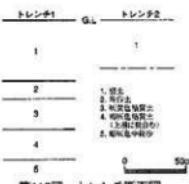
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を鋤削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：トレンチ1で地表下90～110cmにおいて遺物包含層に酷似する土層の堆積を確認した。

調査後の処置：遺物基礎は盃土内に収まるため、確認調査後、着工を指示。



第117図 トレンチ掘削状況



第118図 トレンチ断面図

### 2009-45 桜井谷墓跡群

調査日：平成21年（2009年）10月29日

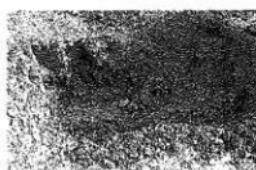
調査場所：豊中市宮山町4丁目15-4

調査対象面積：58.81m<sup>2</sup>

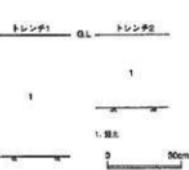
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を鋤削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下30・50cm）内において、道標・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第119図 トレンチ掘削状況



第120図 トレンチ断面図

## 2009-46 豊島北遺跡

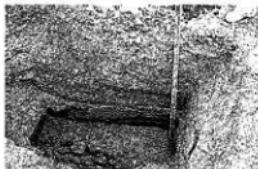
調査日：平成21年（2009年）10月29日

調査場所：豊中市曾根南町1丁目  
750-5の一部調査対象面積：41.28m<sup>2</sup>

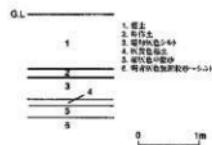
調査の方法：直機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下170cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第121図 トレンチ掘削状況



第122図 トレンチ断面図

## 2009-47 島田遺跡

調査日：平成21年（2009年）11月5日

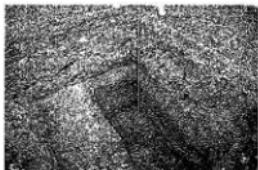
調査場所：豊中市庄内栄町3丁目18-1

調査対象面積：37.26m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：地表下105~118cmにおいて上部器破片を含む遺物包含層を検出したが、遺構は確認されなかった。

調査後の処置：再立会後、慎重工事を指示。



第123図 トレンチ掘削状況



第124図 トレンチ断面図

## 2009-48 桜井谷窯跡群

調査日：平成21年（2009年）11月12日

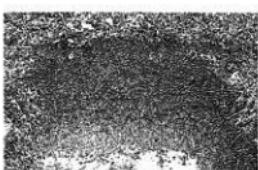
調査場所：豊中市庄内栄町3丁目49-2

調査対象面積：263.71m<sup>2</sup>

調査の方法：重機により坪掘りトレンチ1か所、筋掘りトレンチ1か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：各トレンチで蒸籠痕を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第125図 トレンチ掘削状況



第126図 トレンチ断面図

## 2009-49 庄内遺跡

調査日：平成21年（2009年）11月12日

調査場所：豊中市庄内栄町4丁目83-4

調査対象面積：81.51m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要：掘削深度（地表下200cm）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第127図 トレンチ掘削状況



第128図 トレンチ断面図

### 2009-50 少路遺跡

調査日：平成21年（2009年）11月12日

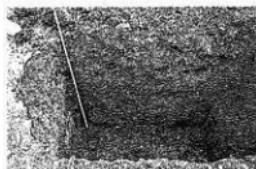
調査場所：豊中市春日町1丁目64

調査対象面積：76.23m<sup>2</sup>

調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を検査した。

調査の概要：地表下75～80cmで基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置：確認調査後、着工を指示。



第129図 トレンチ掘削状況



第130図 トレンチ断面図

### 2009-51 穂積遺跡

調査日：平成21年（2009年）12月3日

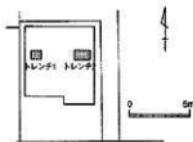
調査場所：豊中市環状線町1丁目204-18

調査対象面積：70.38m<sup>2</sup>

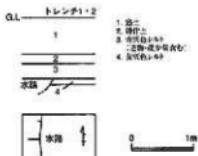
調査の方法：重機によりトレンチ2か所を掘削し、トレンチ内を検査した。

調査の概要：トレンチ1で地表下100cmにおいて水路を検出した。

調査後の処置：検出した遺構は沿岸開発の道筋でないことから、確認調査後、着工を指示。



第131図 トレンチ配置図



第132図 トレンチ平面・断面図

## 2009-21 麻田藩陣屋跡

調査場所：豊中市併池中町3丁目32-2

調査目的：保育所新築工事

調査期間：平成21年（2009年）6月2日

～平成21年（2009年）6月30日

調査面積：81m<sup>2</sup>（※総調査面積は88m<sup>2</sup>）

時代：古墳後期～奈良、中世、近世、近代

調査後の処置：着工時の再立会後、工事の続行を指示。

備考：1区は確認調査、2区は事業主負担による

本発掘調査（麻田藩陣屋跡第13次調査）。

調査の経緯：平成21年2月5～6日に事業主負担による確認調査を実施し、地表下60cmで整地層・溝状造構を、同90cmで基礎層とその上部で遺構を確認した。申請建物の基礎深度は、一部で整地層ならびに遺構面を破壊することが判明したため、協議の結果、調査地が麻田藩主邸内という重要性を鑑み、遺構等の内容把握のため改めて確認調査を実施することになった。調査では2か所のトレーニングを設定し、確認調査は1区、事業主負担部分（エレベーターピット部分）は2区として実施した。

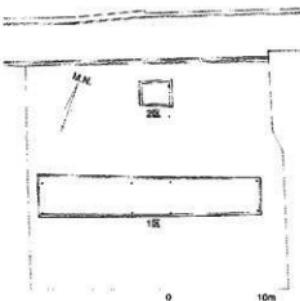
調査の概要：調査区では古墳時代後期～奈良時代、中世、近世～近代の少なくとも3つの遺構面が残存することが判明した。

第1面（古墳時代後期～奈良時代） 重複する螢池遺跡関連の遺構・遺物であり、2区を中心に土坑、柱穴など集落関連遺構ならびに遺物包含層を検出した。

第2面（中世） 土坑、溝状造構、ピットを検出した。このうち土坑1を除く遺構は、埋土中からは土器類小皿・瓦器碗などの碎片が出土しており、時期的には中世前期とみられる。一方、土坑1は平面が隅丸方形を呈し、基底面付近から獸骨片とともに完形の白磁碗が出土している。白磁碗の特徴から土坑1は中世後期（16世紀代）に形成されたと考えられる。

中世造構面の大部分は巨大な落ち込みが占める。この落ち込みは、検出ラインが東西方向にはば一直線かつ急斜面を呈しており、擾乱部分での土層観察から少なくとも1m以上の深度を有することは確実である。検出幅は一方の肩が調査区外にあるため不明だが、少なくとも4m以上を有する。落ち込みは基礎層や遺物包含層などのブロック土を多数含む人為的な埋戻土と考えられ、出土遺物から中世後期以降に埋没したと推定する。

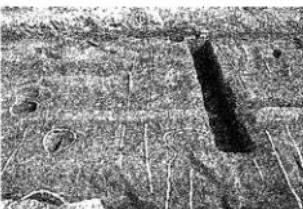
第3面（近世～近代） 調査地は藩主邸の一角に相当するものの、明治六年（1873）段階の陣屋絵図（第136図）による比較検討の結果、1区は藩主邸の建物



第133図 調査範囲図（1:500）



第134図 調査位置図（1:5,000）



第135図 1区掘削状況（北から）

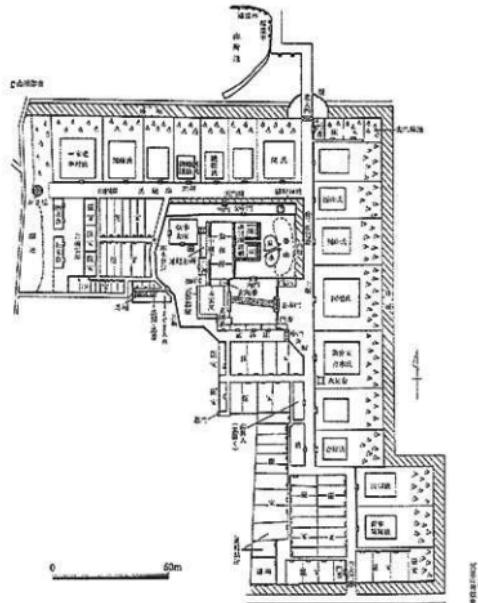
と塀に挟まれた空閑地である可能性が高く、調査でも藩主邸関連の遺構は確認されなかつた（注1）。

一方、2区（EVピット）で確認された溝状遺構は、幅約3m、深さ約1mで東西方向にのびていく。絵図と比較検討の結果、藩主邸を取り囲んだ内堀であることが判明し、絵図の史実性を裏付けることになった。2つの調査区全体を通して、藩主邸関連遺構の残存状況は非常に悪く、その理由として明治4年（1871）の廃藩置県以降、陣屋とともに藩主邸も廃絶の時を迎え、その後耕地化へ至るなかで消滅したためと考えられる。しかしながら、内堀のように一定の深度を有する遺構だけは破壊を免れたようである。

まことに：麻田藩主邸関連遺構の検出に主眼を置いていた今回の確認調査では、藩主邸内堀を確認することができた。藩主邸関連の遺構を明確に確認できたのは今回が初の事例であり、藩主邸の範囲を決定する上でも貴重な成果であった。また1区の調査位置は、絵図と比較検討の結果、藩主邸の屋敷と塀に挟まれた空閑地であることが判明し、調査においても藩主邸関連の遺構は検出されなかったことから、検討結果の妥当性がうかがえた。藩主邸は廃藩置県後、廃絶を迎える、調査地は耕作地へと土地の利用形態が変わっていくことも併せて判明し、調査地周辺における土地利用形態の変化を読み取っていくうえでも貴重な成果であった。

（注1）比較検討の際は次の文献も参考にした。

『麻田藩陣屋跡一堂地駅西地区第1種市街地再開発工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－』  
（財）大阪府文化財センター 2002年

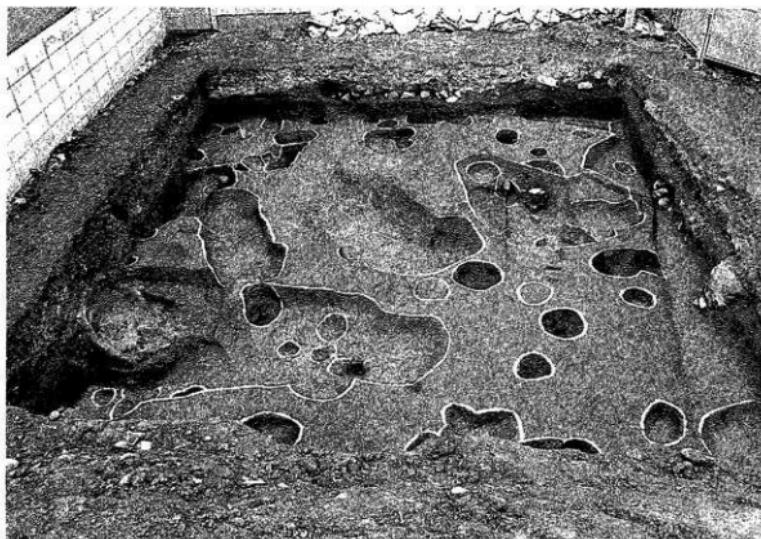


第136図 麻田藩陣屋（小谷英一氏所蔵）（1:2,000）

# 図 版



図版 1 新免遺跡第62次調査

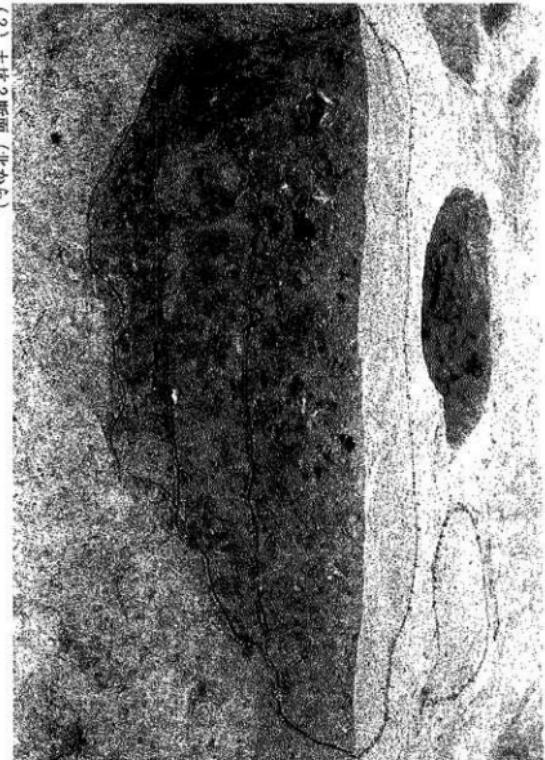
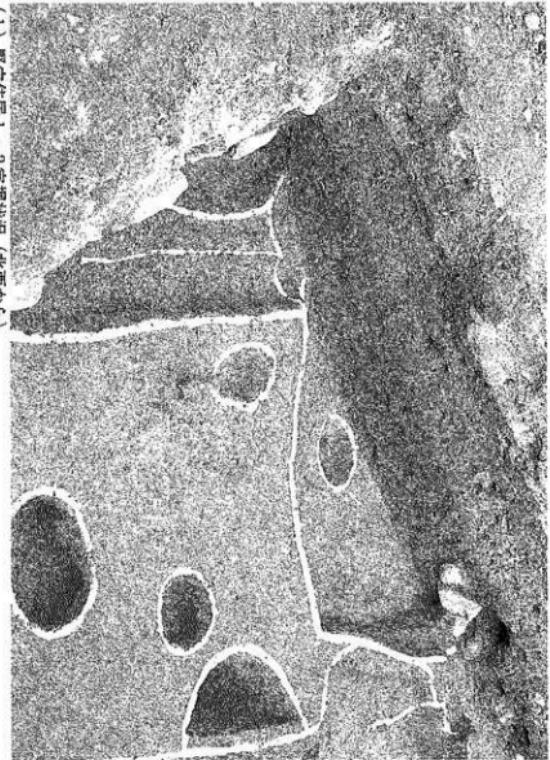


(1) 調査区北半部（南から）



(2) 調査区南半部（東から）

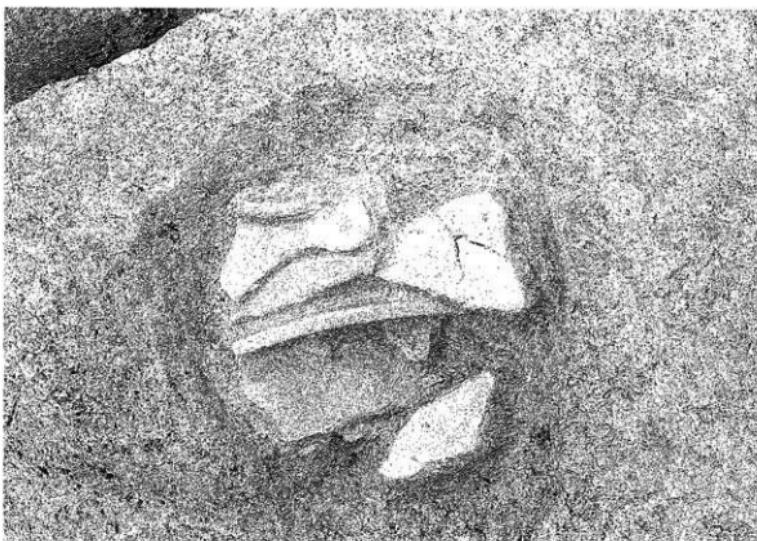
図版 2 新免遺跡第62次調査



図版3 新免遺跡第62次調査

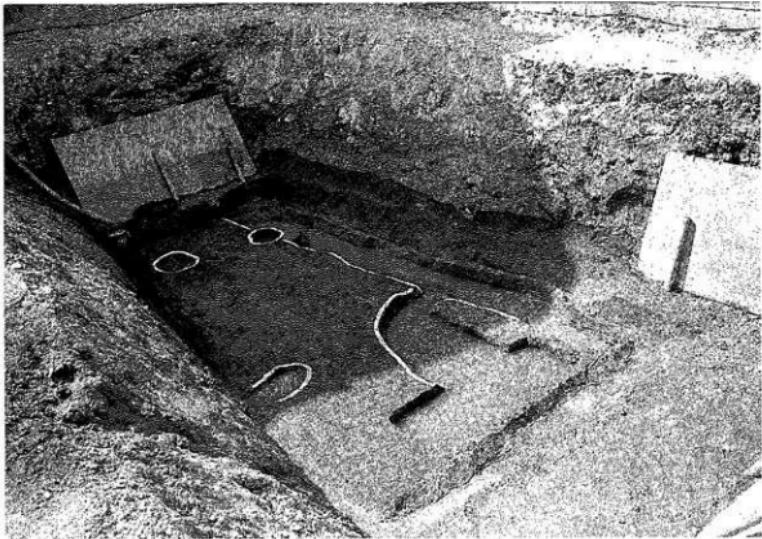


(1) ピット1 土器出土状況（北から）

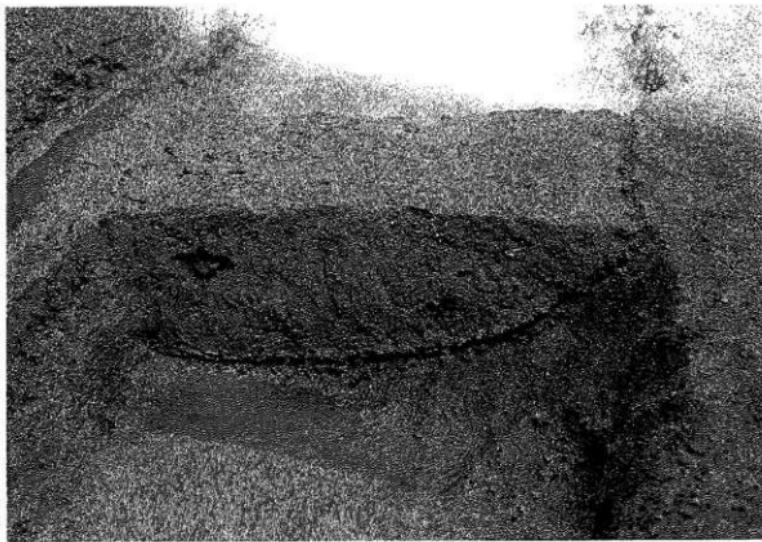


(2) ピット2 土器出土状況（東から）

図版 4  
豊島北遺跡第5次調査



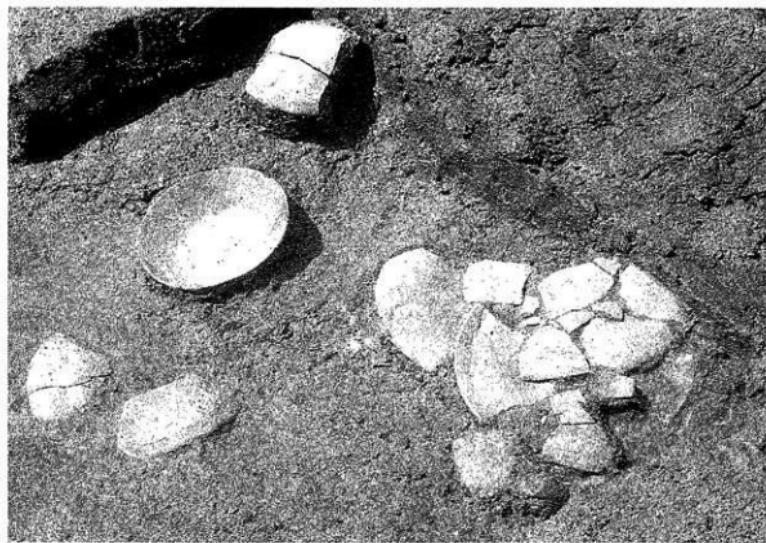
(1) 調査区北半部 全景（東から）



(2) 溝1断面（西から）



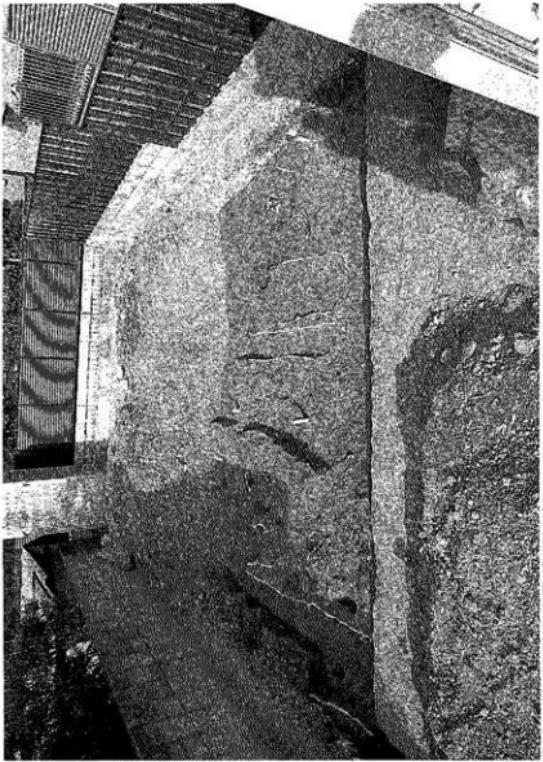
(1) 井戸1断面（南から）



(2) 包含層遺物出土状況（南から）



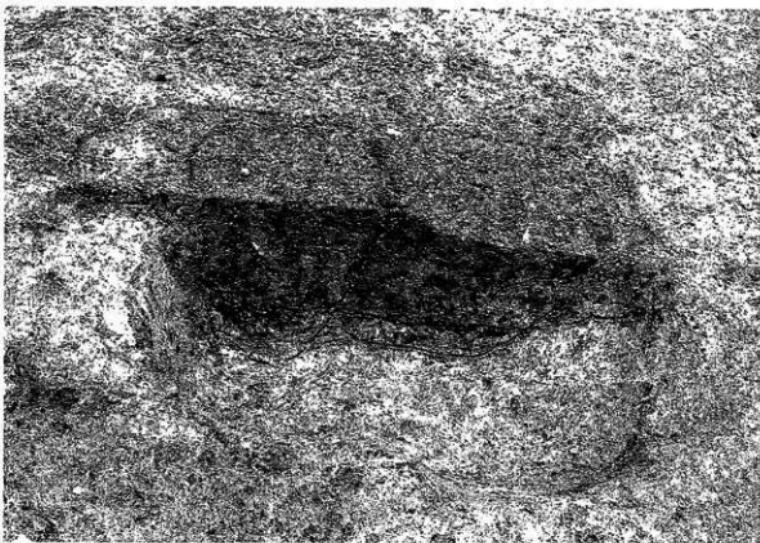
(1) 調査区東半部全景（西から）



(2) 調査区西半部全景（西から）



(1) 調査区全景（北から）



(2) SP 02断面



(1) 調査区全景（北から）



(2) 溝1（断面1）

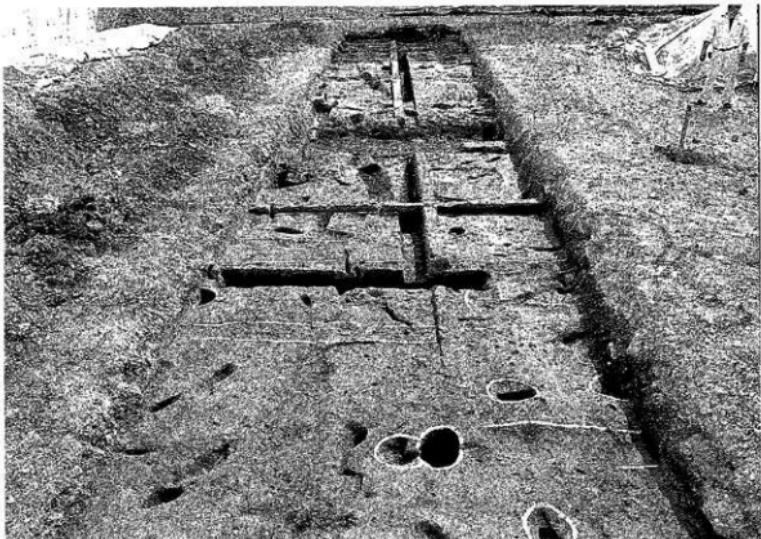
図版9 内田遺跡第9次調査



(1) 調査区全景（南から）



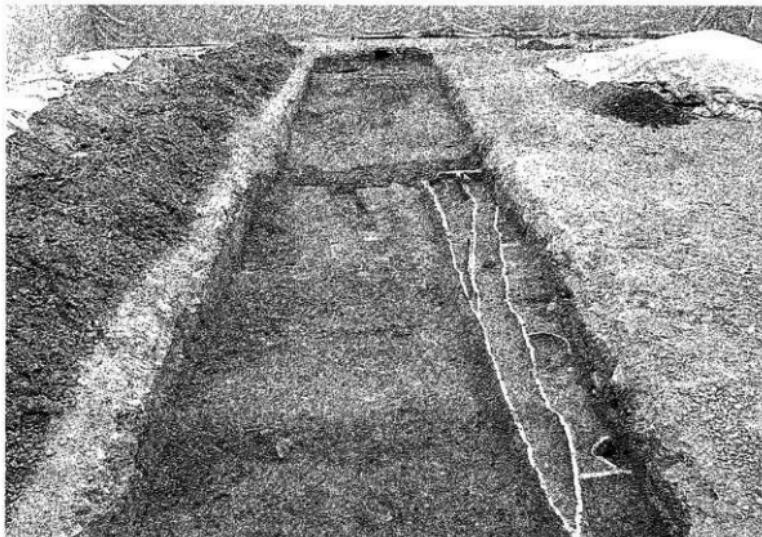
(2) 溝1 稼出土状況（北から）



(1) 第1面(近世以降) 東半部全景(東から)



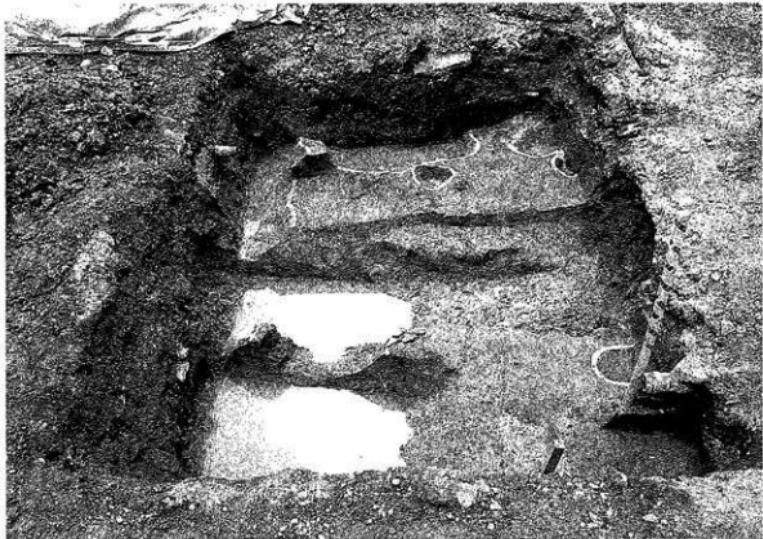
(2) 第1面(近世以降) 西半部全景(西から)



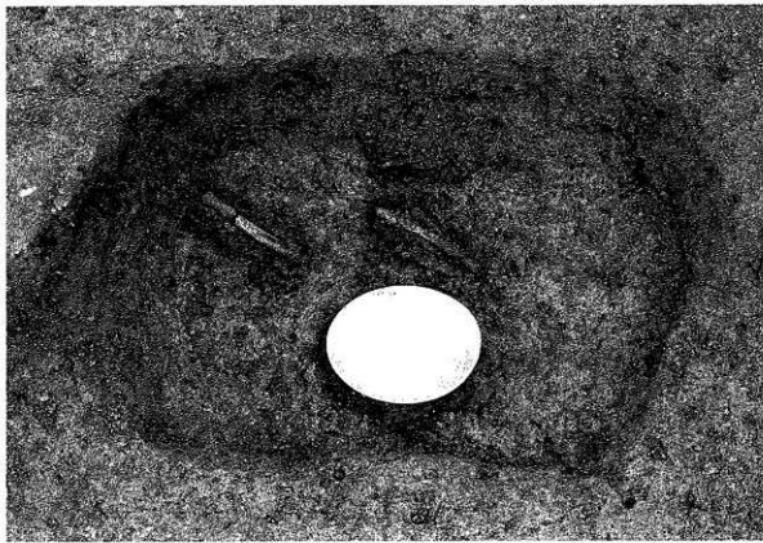
(1) 第2・3面東半部全景（東から）



(2) 第2・3面西端部全景（西から）



(1) 藩主邸内堀 検出状況（東から）



(2) 土坑1 遺物出土状況（第2面 北から）

報告書抄録

ふりがな	とよなかしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう
書名	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成21年度(2009年度)
シリーズ名	豊中市文化財調査報告
シリーズ番号	第62集
編著者名	陣内高志、服部聰志、清水篤、様田正龍、浅田尚子
編集機関	豊中市教育委員会(市町村コード:27208)
所在地	〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3丁目1-1 TEL06-6858-2581(地域教育振興課)
発行年月日	西暦 2010年3月31日

所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
新光遺跡 第62次	玉井町3丁目 35-1	34°46'59"	135°27'28"	20081216~ 20090131	55.74m <sup>2</sup>	個人住宅建築
新島北遺跡 第5次	曾根南町1丁目 156-9地1筆	34°45'48"	135°28'14"	20090402~ 20090427	66m <sup>2</sup>	個人住宅建築
本町遺跡 第36次	本町4丁目 166-4	34°47'20"	135°27'56"	20090413~ 20090428	39m <sup>2</sup>	個人住宅建築
山ノ上遺跡 第19次	玉山町42-1 の一部	34°46'29"	135°27'40"	20090518~ 20090529	40m <sup>2</sup>	個人住宅建築
箕池西遺跡 第17次	箕池西町1丁目 269	34°47'26"	135°28'01"	20090706~ 20090724	220m <sup>2</sup>	共同住宅建築
内田遺跡 第9次	内田町3丁目 26-1	34°47'56"	135°28'01"	20090901~ 20090910	28m <sup>2</sup>	個人住宅建築

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新光遺跡 第62次	集落跡・古墳	弥生・古墳	竪穴住居 土坑・柱穴	弦纹土器 土師器・須恵器	弥生中期、古墳後期の 集落開闢遺構を検出
新島北遺跡 第5次	集落跡	平安・中世	井戸・溝	土師器 須恵器・陶磁器	古代末の耕作開闢遺構、 井戸等を検出
本町遺跡 第36次	集落跡	古墳・中世	柱穴	土師器 須恵器・陶磁器	古墳時代～中世の 集落開闢遺構を検出
山ノ上遺跡 第19次	集落跡	弥生～古代	柱穴	土師器 須恵器	古代の集落開闢遺構を検出
箕池西遺跡 第17次	集落跡	古墳・古代	柱穴・溝	土師器 須恵器	奈良時代～平安時代の 集落開闢遺構を検出
内田遺跡 第9次	集落跡	古墳・中世	溝	土師器 須恵器	中世の集落開闢遺構を検出



---

豊中市文化財調査報告書第 62 集

**豊中市埋蔵文化財発掘調査概要**

平成 21 年度（2009 年度）

発行 豊中市教育委員会

豊中市中桜塚 3 丁目 1-1

平成 22 年（2010 年）3 月 31 日

印刷 株式会社きたがわぶりんと

---



